

放送大学大学院
「文化科学研究科」「文化科学専攻」
博士後期課程

学生募集要項

2026年度

[博士全科生]

出願期間

[郵 送] 2025年8月15日(金)～8月25日(月)〔消印有効〕

※郵便局に持ち込み、一般書留または簡易書留でお送りください。

出願全般についての注意事項

重要ですので必ずお読みください。

出願は、「郵送」で行ってください。
出願後の博士全科生出願票、研究計画書および志望理由書等の記載内容の変更はできません。

今回の募集において出願できるのは、1プログラムに限ります。

期限は厳守してください。
消印が出願期間(8月15日～25日)外の出願書類は一切受付できませんのでご注意ください。

個人情報の取扱いについて

- 本学博士後期課程に出願される方の氏名、現住所などの情報は、資料等の送付、本学からのお知らせやアンケート調査、学生が在籍している単位互換校や連携協力校への情報提供など、本学園の業務活動に限って使用します。
- 性別、職業、最終出身学校などの情報は、統計資料として分析の上、パンフレット等への掲載に使用しますが、氏名・住所等の情報は掲載しませんので、ご安心ください。
- 出願書類は、入学者選考および入学後の研究指導等学修活動に限って使用します。

文字の取扱いについて

- 本学におけるウェブ画面上の表示や各種証明書(学生証・学位記含む)の氏名等の文字は、コンピュータで処理を行う関係上、JIS水準(JIS2004)1～2程度の文字までの取扱いとなりますので、あらかじめご了承ください。
※特殊な文字については、JIS水準(JIS2004)1～2程度の文字に置き換えられるか、カタカナ等で表記されます。

【例示】

原 → 原 恵 → 恵、惠 眞眞 → 真、眞

※感染症等への対応について

今後の感染症等の状況によって、入学者選考の実施方法・スケジュール等に変更が生じることがあります。変更の際は、本学ウェブサイト(www.ouj.ac.jp)でお知らせしますので、必ずご確認ください。

1	概要	2	1. 出願対象者 2. 入学者選考スケジュール 3. プログラム 4. 学習センター・サテライトスペース 5. 入学から修了まで 6. 修了要件
2	出願にあたって	4	1. 障がいのある方で特別な支援を希望される方 2. 外国籍の方の出願について
3	募集内容	6	1. 募集学生・募集人員 2. 入学者受入方針 3. 入学者選考の基本方針 4. 特定研究（研究指導） 5. プログラムの選択 6. 博士後期課程を修了後、再度入学を希望する方へ 7. 博士後期課程を退学後、再入学を希望する方へ
4	出願資格	9	1. 出願資格 2. 出願資格事前審査
5	入学者選考方法	12	1. 第1次選考（筆記試験） 2. 第2次選考（面接試問） 3. 注意事項等
6	出願書類	14	1. 出願書類 2. 出願に際しての注意事項 3. 出願書類の記入方法等
7	入学	21	1. 入学手続・科目登録申請 2. 学費（入学料・授業料・研究指導料）の納入 3. 入学時期
8	本部・学習センター等の案内	22	1. 本部 2. 学習センター・サテライトスペース
9	本部・お問い合わせ先	巻末	

添付書類

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 出願票（①～②） | <input type="checkbox"/> 出願資格事前審査申請書 |
| <input type="checkbox"/> 領収証書貼付用紙（③） | <input type="checkbox"/> 入学検定料振込依頼書 |
| <input type="checkbox"/> 研究計画書（④～⑨） | <input type="checkbox"/> 出願用封筒 |
| <input type="checkbox"/> 志望理由書（⑩～⑬） | |

1. 出願対象者

p.9の出願資格を有する方で、教育指導の関係上、日本国内に居住し、郵便で連絡可能な方が出願対象者となります。

2. 入学者選考スケジュール

出願受付期間 2025年8月15日(金)～8月25日(月) (消印有効)

出願書類等受領後、本学より受験票等を送付します。

2025年9月9日(火) 発送(簡易書留)

※9月16日(火)までに届かない場合は、巻末のお問い合わせ先へご連絡ください。

第1次選考 筆記試験を行います

●実施日：2025年10月4日(土)

●場 所：各学習センター **(東京渋谷学習センター、サテライトスペースを除く)**

第1次選考合否通知 2025年10月31日(金) 発送(簡易書留)

※11月5日(水)までに届かない場合は、巻末のお問い合わせ先へご連絡ください。

第2次選考 第1次選考の合格者に対して、面接試験を行います。

●実施日：2025年11月8日(土)

●場 所：Web会議システム (Zoom) または対面 (社会経営科学プログラムのみ) による実施

第2次選考合否通知 2025年12月19日(金) 発送(簡易書留)

※2026年1月6日(火)までに届かない場合は、巻末のお問い合わせ先へご連絡ください。

科目登録 2月中～下旬 (予定)

入学 2026年4月1日(水)

3. プログラム

博士全科生は、以下の6つのプログラムのいずれか1つに所属します。出願できるのは、**1プログラム**に限ります。

●生活健康科学 ●人間科学 ●社会経営科学 ●人文学 ●情報学 ●自然科学

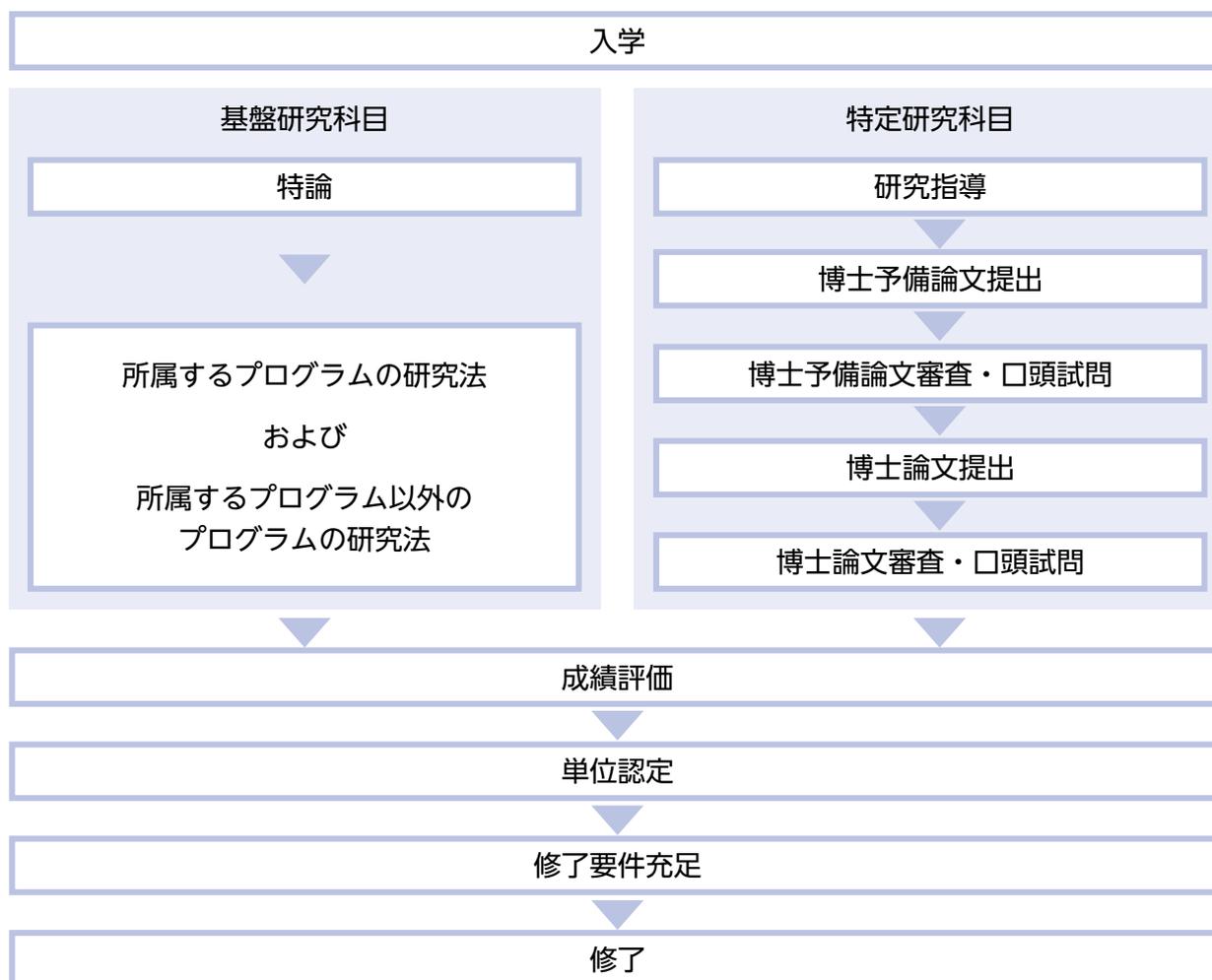
4. 学習センター・サテライトスペース

全ての都道府県に学習センター・サテライトスペースを設置しています。学生はいずれか1つに所属します。

学習センター・サテライトスペースの主な利用内容

- 学習相談 ●ゼミの開催 ●書籍の閲覧 ●学生団体（サークル）活動などの学生交流
- 学生証の更新・証明書の発行（サテライトスペースを除く）

5. 入学から修了まで



6. 修了要件

博士全科生として3年以上在学し、以下の単位以上を修得して、かつ博士論文の審査および口頭試問に合格する必要があります。

プログラム名	修得すべき最低単位数	単位修得上の要件
生活健康科学 人間科学 社会経営科学 人文学 情報学 自然科学	17単位	所属するプログラムの基盤研究科目4単位（特論科目2単位、研究法科目2単位）、所属するプログラム以外のプログラムの基盤研究科目1単位（研究法科目1単位）、特定研究科目12単位の合計17単位以上を修得する。

※早期修了制度について

優れた研究業績を有し、入学後に一定の要件を満たした方は、2年以上の在学で修了が認められます。

1. 障がいのある方で特別な支援を希望される方

障がいのある方を対象に、障がいの特性に応じて入学者選考における「受験上」および入学後における修学支援（本学では「受験上または修学上の合理的配慮」と言います）を行っています。

合理的配慮を希望される場合は、**2025年6月10日(火)～7月10日(木)〔必着〕**までに下記の申請書類を、**簡易書留等追跡可能な方法**により「合理的配慮申込届在中」と朱記の上、下記宛先へ提出してください。なお、提出された申請書類は返却いたしません。

ご提出いただいた書類をもとに、本学で対応を検討し、検討の結果、対応可能と判断した配慮内容について、8月8日（金）発送予定の通知書にてご連絡いたします。なお、審査内容に関する問い合わせには応じておりません。

提出先 〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11

放送大学学務部教務課大学院企画・入試係

※合理的配慮申込届は、巻末の出願用封筒の宛先に記す私書箱あてには絶対に送付しないでください。

○合理的配慮申請書類

申請書類	部数
合理的配慮申込届（以下ダウンロード先から入手する本学所定様式）	1
障害者手帳の写し または 医師の診断書（原本）	1
返信用封筒（ 長形3号 （120mm×235mm）に申請者の住所・氏名を明記し、返信用切手を貼ったもの）	1

○合理的配慮申込届ダウンロード先

<https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/accessibility/support/>

※障がいのある方への修学支援



障がいのある方への修学支援（本学では、修学上の合理的配慮と言います）は、それぞれの障がいの特性や大学側の状況などを勘案し、希望される方ご自身と本学とが相談・協議のうえ、決定されるものです。上記ウェブサイトにて修学上の合理的配慮の例を挙げておりますが、常時提供可能であることを保証するものではなく、過重な負担等となる場合には提供できませんので、ご注意ください。なお、**期限内に申請書類の提出がなされなかった場合には、受験上の合理的配慮を受けることができませんので、十分ご注意ください。**

既に教養学部または大学院修士課程で、修学上の合理的配慮に係る相談がお済みの方でも、博士全科生として合理的配慮を希望される場合には、別途申請が必要となりますので、必ず上記提出期間内に書類をご提出ください。

1. 募集学生・募集人員

文化科学研究科 文化科学専攻 博士全科生（募集人員：15名）

博士全科生とは、博士後期課程を修了して、「博士（学術）」の学位取得を目指す学生種です。本学博士後期課程は、1専攻ですが、その中に下記の6つの「プログラム」を設けています。

博士全科生は、いずれか1つのプログラムに所属することとなります。

・生活健康科学 ・人間科学 ・社会経営科学 ・人文学 ・情報学 ・自然科学

2. 入学者受入方針

●アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

教育理念、教育研究上の目的等を踏まえて、高度の専門性が求められる社会的役割を担うために深い学識及び卓越した能力を修得し、文化の進展並びに地域社会に貢献できる主導的人材を育成するため、以下のような学生を求める。

1. 専攻領域における研究能力又は、研究能力に加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力をもつ。
2. 専攻領域及びその周辺分野、さらに他の分野における専門知識や技能を修得することによって涵養される深く広い教養をもつ。
3. 学術領域・地域社会・職場等において直面する課題を解決するための実践の取組に基づく、豊かな経験知・実践知（※）をもつ。
4. 知の獲得への強い意志と意欲をもち生涯にわたってあらゆる機会、場所において学び、その成果を生かしていく意欲をもつ。

（※各プログラムにおける「豊かな経験知・実践知」については、以下のとおり。）

生活健康科学プログラム	特定非営利活動法人メンバー、非政府組織メンバー、看護師、保健師、コメディカル、社会福祉士、介護福祉士等、危機管理、国際協力、保健、看護、社会福祉等の領域において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
人間科学プログラム	産業・労働、保健・医療、学校教育、教育行政、カウンセリング、セラピー等の領域において実践・研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
社会経営科学プログラム	行政組織、企業、地域社会・職場等、市民団体、NPO、研究機関等において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
人文学プログラム	博物館・美術館等の文化施設、研究機関、文化行政組織、企業の文化活動部門、その他の場において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。
情報学プログラム	行政組織、企業、地域社会、市民団体、NPO、各種教育研究機関において研究・教育・企画・運営・管理等の業務に、学術的な研究遂行能力を基盤とし高度な職業的知識や技能に基づいて取り組むことをとおして涵養される経験知・実践知。
自然科学プログラム	自然科学に関わる国、地方公共団体等の研究機関、企業の研究部門、自然環境に関わるNPO等において研究・企画・運営・管理等の職務経験をとおして涵養される経験知・実践知。

プログラム名	教育目標
生活健康科学	生活科学、健康科学、社会福祉学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、人々の生活と健康の向上に資する公共的施策もしくは地域社会の形成をリードすることのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成
人間科学	心理学、臨床心理学、教育学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、人々の心のあり方の究明とその問題状況の解決に取り組み、子どもの教育、高等教育さらには成人の学習に関わる公共的施策を高度に指導することのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成
社会経営科学	政治学、経済学・経営学、社会学などに加えて、これらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践的に活用して直面する社会的諸課題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、社会や組織の経営・運営に関わる公共的施策を高度に指導することのできる高度な社会人研究者として公共の場で活躍できる社会分析家（アナリスト）・社会的企業家、公共政策の社会実践家・社会批評家（ジャーナリスト）、学際的・超領域的な社会研究者、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成
人文学	哲学、文学、言語学、美学、歴史学、人類学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、さまざまなジャンルの文化の普及啓蒙や地域社会・職場等における研究の遂行や公共的施策を高度に指導することのできる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成
情報学	情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理と技術を探求し活用する高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に応用するとともに、情報とその処理、及び情報化が人間と社会に及ぼす諸問題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、高度な指導力を発揮できる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成
自然科学	数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学、天文学及びそれらの学際領域における高度な自立的研究能力を有し、専門的かつ総合的な広い学識を実践に活用するとともに、現下の自然科学にまつわる諸問題を的確に発見し、その要因と背景を究明して問題状況の解決に取り組み、高度な指導力を発揮できる人材、及び当該領域において自立的・創造的に高度な研究を遂行することのできる人材の養成

3. 入学者選考の基本方針

入学者選考にあたっては、選考対象者が主として経験的な知識を蓄積した社会人であることを考慮して、大学院修士課程（博士前期課程）または専門職学位課程修了者、およびそれと同等の研究水準を持ち、さらに研究意欲を保持し、博士論文を完成する能力を身に付ける可能性のある者の入学を想定します。加えて、学問への意欲と明確な問題意識および着実な研究姿勢を持つ者であることを求めます。その際、本大学院博士後期課程が自立した高度社会人研究者の養成をその目的とすることに鑑み、不可欠の研究遂行手段としての国際学術語である英語の読解能力を一定水準で求めます。

さらに、選考にあたっては、入学を希望する者の社会経験や業績を考慮しますが、社会経験や業績のない場合であっても、基礎的な学識を備え、意欲が高い人材は積極的に受け入れます。

4. 特定研究（研究指導）

- ①主研究指導教員1名（メジャー分野の教員1名）、副研究指導教員2名（マイナー分野の教員1名およびメジャー分野またはメジャー隣接分野の教員1名）の研究指導体制で博士論文作成のための研究指導を行います。主研究指導教員については、願書の研究テーマや研究計画等をもとに、入学試験面接質問等により領域適合性等を確認し、合格者に対して本学が最適と判断した専任教員を充てることとしています。副研究指導教員については、入学後のオリエンテーションでの主研究指導教員との面談後、本学が最適と判断した専任教員を充てることとしています。
- ②研究指導の方法については、個別やゼミナール形式による直接対面での指導、Web会議システムや電子メールなどのインターネット技術を活用した指導があります。そのため、学生は、インターネットを利用できる環境があつてパソコンスキル（ワード、エクセル、電子メール等）を身につけておく必要があります。なお、**具体的にどのような方法で研究指導を行うかは、入学後、主研究指導教員が学生と相談した上で決定します。**
- ③実験・実習を伴う研究については指導困難な場合があります。実験・実習を伴う研究を検討されている場合、その内容を具体・詳細に記したうえで下記「5.プログラムの選択」に記載の方法で本学のプログラムで指導可能かを必ず事前にご確認ください。

5. プログラムの選択

プログラムの選択は、入学者受入方針や各プログラムの専任教員の指導可能なテーマ・研究業績、本要項、同封の「大学院案内」、「授業科目概要」のほか、本学ウェブサイトの教員紹介ページ (<https://www.ouj.ac.jp/reasons-to-choose-us/act/>) やウェブサイト掲載のプログラム紹介資料 (<http://www.ouj.ac.jp/admission/doctor/flow/guidance/>) 等を参照し、ご自身の「研究計画書」の内容との整合性を念頭に置いて、慎重に行ってください。

お考えの研究テーマが本学のプログラムで指導可能かについて確認されたい場合は、次の事項を記し、件名を「2026年度博士全科生入学者選考のプログラム選択について（氏名）」として2025年7月末日までに本部教務課大学院企画・入試係 (in-nyushi@ouj.ac.jp) にメールでお問い合わせください。

ただし、本問い合わせに対するプログラムからの回答は内容の如何に関わらず「入試の合格や指導教員を保証するものではないこと」に注意してください。回答には2週間程度のお時間を頂戴する可能性がございます。

- ①現時点で希望するプログラムがある場合は、その名称
- ②現時点で希望する専任教員がいる場合は、その氏名
- ③現時点で考えている研究題目とその研究詳細、その研究をしたいと考える理由

※本学では、最終合格前に、入学希望者が教員と直接の相談等連絡を行うことはできません。

6. 博士後期課程を修了後、再度入学を希望する方へ

本学博士後期課程で博士の学位を取得された方は、修了されたプログラムと異なるプログラムに出願することはできますが、修了されたプログラムと同一のプログラムには再度出願することはできませんのでご注意ください。

また、出願時の研究計画書の内容が、修了されたプログラムにおける博士論文の内容と実質同様であると認められる場合も、出願を受理しませんのでご注意ください。

7. 博士後期課程を退学後、再入学を希望する方へ

博士全科生として入学後、退学された方で、博士全科生として再入学を希望される場合、次の条件をいずれも満たす場合に再入学選考を行う場合がありますので、2025年8月4日(月)までに、教務課大学院企画・入試係 (in-nyushi@ouj.ac.jp) へご相談ください。

- ①再入学時に希望する研究題目・内容と、退学時の研究題目・内容が実質同様と認められるとき。
- ②再入学する年次の研究指導体制に余裕があるとき。

※在籍期間満了等で除籍となった方は再入学選考の対象外です。博士全科生へ入学希望する場合は通常の入学者選考を受験する必要があります。

1. 出願資格

出願資格を有する方は、以下の(1)～(8)のいずれかに該当する方です。

このうち、(7)または(8)に該当する方は、出願資格事前審査に申請し、審査の結果、本学大学院が「出願資格有り」と認めた場合に限り出願することができます。詳しくは次ページ「2. 出願資格事前審査」をご覧ください。

＜出願資格を有する方＞

(1)	修士の学位又は専門職学位を有する者及び2026年3月までに有する見込みの者
(2)	外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月までに授与される見込みの者 [注1]
(3)	外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月までに授与される見込みの者 [注1]
(4)	我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月までに授与される見込みの者 [注1]
(5)	国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月までに授与される見込みの者
(6)	外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験および審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び2026年3月までに認められる見込みの者

[注1] (2)から(4)に該当する方は、出願前に出願資格の確認を行いますので、学位授与証明書（電子データ版・和訳添付）をメールで教務課大学院企画・入試係（in-nyushi@ouj.ac.jp）へお送りください。

※確認には2週間程度の時間を要する場合があります。

＜出願資格事前審査を要する方＞

(7)	文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号） [注2]
(8)	本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者及び2026年4月1日までに24歳に達する者

[注2] (7)は次の各号のいずれかに該当する方です。

- ①大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学の大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- ②外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学の大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

2. 出願資格事前審査

出願資格事前審査は、前ページの(7)または(8)に該当する方に対して行う審査です。

審査を希望される場合は、**2025年6月10日(火)～7月10日(木)(必着)**までに下記の申請書類を、**簡易書留郵便または一般書留郵便**により「**出願資格事前審査申請書在中**」と朱記の上、下記宛先へ提出してください。なお、提出された申請書類は返却いたしません。

審査結果は、2025年8月8日(金)に通知文書を発送する予定です。出願資格が認められた方は、出願資格認定番号を確認の上、p.14記載の出願書類を出願期限までに提出してください。なお、8月14日(木)を過ぎても審査結果通知文書が届かない場合は、教務課大学院企画・入試係(in-nyushi@ouj.ac.jp)へお問い合わせください。

なお、**審査内容に関する問い合わせには応じておりません**。また、これまでに**出願資格を有すると本学の大学院が認定し、出願資格認定番号を通知された方については、あらためて本審査を受ける必要はありませんので、出願資格認定番号を出願票に記入の上、出願書類を出願期限までに提出してください。**

提出先 〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
放送大学学務部教務課大学院企画・入試係

※**出願資格事前審査申請書は、巻末の出願用封筒の宛先に記す私書箱あてには送付しないでください。**

○出願資格事前審査申請書類

申請書類	原本 (コピー不可)
①出願資格事前審査申請書（本募集要項添付の所定様式による）	1
②研究・実務概要（下記参照）	1
③最終学校の卒業（または退学）証明書（原本）	1
④最終学校の学業成績証明書（原本）	1
⑤返信用封筒（長形3号（120mm×235mm） （申請者の住所・氏名を明記し、返信用切手を貼ったもの）	1

「研究・実務概要」について

修士の学位または専門職学位を有する方と同等以上の学力があるかどうかを判定するための資料となります。大学卒業後に研究機関や企業等において携わった研究・実務の内容を**20枚程度（A4版、片面印刷、文字サイズ9ポイント以上）**にまとめて記述してください。

大学卒業後、または外国において学校教育における16年の課程を修了後、もしくは、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し当該外国の学校教育における16年の課程を修了後、国内外の大学または大学共同利用機関およびこれに準ずる研究機関において、研究生、研究員等として2年以上研究に従事された方は、その研究によって大学院修士課程または専門職学位課程修了（以下、「修士課程等修了」という。）相当の学力を修得したと考えるもの（著書、学術論文、学術講演、学術報告書および特許取得等）を具体的に記述してください。

企業・社会活動・学会等における実務経験のある方は、その経験によって修士課程等修了に相当する学力を修得したと考えるものを具体的に記述してください。

大学等において講師等を務めた経験のある方は、その経験によって修士課程等修了に相当する学力を修得したと考えるもの（コマ数・単位および講義概要等）を具体的に記述してください。

<その他>

- ・現在の氏名と証明書に記載された氏名に変更があった場合
姓のみ変更：変更前後の姓、変更年月日（A4判、様式任意）を記入して申請書類と一緒に提出してください。
姓名の変更、名のみの変更：戸籍・免許証等の変更前と変更後の氏名が確認できる書類の写しを申請書類に同封してください。
- ・必要に応じて他の証明書等の提出を求める場合がありますのでご注意ください。
- ・虚偽の申請（虚偽の証明書提出等を含む）を行ったことが判明した際には、認定された出願資格は無効となります。

1. 第1次選考（筆記試験）

英語読解試験および小論文により第1次選考の合格者を決定します。

英語読解試験では、「語彙力よりも文脈の理解力や論旨の把握力」を中心に評価を行います。

小論文では、「出題意図の的確な理解、客観的な論拠提示の適切さ、論理的構成や文章表現の的確さ、論理一貫性などの観点」から評価を行います。第1次選考の合格者は、募集人員の2倍程度を限度とします。

- 試験日時等 2025年10月4日(土) 9時30分～15時00分 英語読解試験：9時30分～11時30分
小論文試験：13時00分～15時00分

※個人の事情による日時の希望や変更などには一切応じておりませんので、あらかじめご了承ください。

- 試験会場 原則として所属を希望する学習センター

※ただし、東京渋谷学習センターを希望される方は、試験会場等の都合上、東京文京学習センターでの受験となりますのでご注意ください。また、サテライトスペースを所属希望とした方は、当該道県内学習センターでの受験となります。

- 出題内容

プログラム名	出題内容	配点比率（英語読解：小論文）	特に持込を許可するもの
生活健康科学	英語読解・小論文	30：70	英語読解では英和辞典のみ 持込可（電子辞書は不可）
人間科学		30：70	
社会経営科学		20：80	
人文学		30：70	
情報学		30：70	
自然科学		33：67	

小論文の点数が、各プログラムにおいてあらかじめ定めた点数に満たなかった場合は不合格となります。

※英語読解試験を欠席された場合には小論文試験を受験することはできません。

※過去3年分の筆記試験問題を本学ウェブサイトで開催しています。

- 合否通知……2025年10月31日(金) 発送

簡易書留郵便にて送付し、合格者には第2次選考（面接試験）の日時等が記載された書類も同封します。

なお、2025年11月5日(水)までに届かない場合は、教務課大学院企画・入試係(in-nyushi@ouj.ac.jp)へお問い合わせください。

2. 第2次選考（面接試問）

第1次選考の合格者に対して、提出された研究計画書、志望理由書および修士論文等をもとに面接試問を行い、「テーマの領域適合性、受験者の研究意欲、職業・社会生活上の経験、研究者としての資質、面接応答的確さ、研究テーマの実現可能性・発展可能性・将来性等」の観点から総合的に評価を行います。面接試問の点数が、各プログラムにおいてあらかじめ定めた点数に満たなかった場合は不合格となります。

最終合格者は、筆記試験および面接試問の結果に基づき決定します（配点比率は50：50です）。

○試験日 2025年11月8日(土)

○試験会場ならびに実施方法（プログラムにより会場・方法が異なります。）

(1) 社会経営科学プログラム

放送大学本部で、対面による面接試問を行います。

(2) 社会経営科学プログラム以外

自宅等からWeb会議システム（Zoom）を使用して、遠隔で面接試問を受験していただきます。

受験には以下の準備・確保が必要となります（**受験生が準備・確保してください**）。

1. 明るく静かな個室環境（受験中本人以外は入室しないようにできる場所）
2. 映像・音声を送受信できるネットワーク環境
3. カメラ・マイクを接続したZoomが使用できる状態のパソコン・タブレット端末等
4. スマートフォン・電話等（ネットワークトラブルが発生した場合の緊急連絡用）

○集合時間 上記試験日の9時から18時の間で本学が指定します。

※**個人の事情による日時の希望や変更などには一切応じておりませんので、あらかじめご了承ください。**

○最終合否通知 2025年12月19日(金)発送

簡易書留郵便にて送付します。2026年1月6日(火)までに届かない場合は、教務課大学院企画・入試係(in-nyushi@ouj.ac.jp)へお問い合わせください。

3. 注意事項等

①第1次選考（筆記試験）および第2次選考（面接試問）を受験しなかった場合は欠席扱いとなり、入学者選考の対象外となります。また、欠席者に対して入学者選考の結果通知は行いません。

②受験のための宿泊施設等の斡旋は行っておりません。

③選考内容を含む可否の問い合わせには応じておりません。

④天災、交通機関の事故、台風・大雨等による交通機関のまひ、その他受験者の責任に帰さないやむを得ない事情が生じた場合、予備日に入学者選考を実施します。

・第1次選考予備日 2025年10月12日(日)

・第2次選考予備日 2025年11月23日(日)

※**個人の事情による日時の希望や変更などには一切応じておりませんので、あらかじめご了承ください。**

1. 出願書類

出願にあたっては、次ページ記載の注意事項を必ず確認の上、「Ⅰ」全出願者共通提出書類および「Ⅱ」出願資格別提出書類の両方を提出してください。

なお、出願資格事前審査において出願資格が認定された方は、「Ⅰ」全出願者共通提出書類のみ提出してください。

「Ⅰ」全出願者共通提出書類

出願書類の種類	内 容 等
出 願 票 (本要項添付 (桃色) ①～②)	p.16～19の記入方法を参照してください。
領収証書貼付用紙③ (本要項添付 (桃色)) 入学検定料納付後の 「領収証書 (原本)」 (30,000円)	<p>本要項に添付されている「振込依頼書」により入学検定料を払い込み、その「領収証書 (原本)」を領収証書貼付用紙③に貼付して提出してください。</p> <p>なお、払い込みは8月14日(木)から可能となりますので、銀行等の金融機関の窓口またはコンビニエンスストアのレジカウンターで行ってください (スマホ決済をご利用いただけます。詳細はp.33をご確認ください)。</p> <p>※金融機関またはコンビニエンスストアから領収印をもらってください。コンビニエンスストアのレジカウンターで納付する方は、納付時に領収証書とともに渡されるコンビニエンスストア発行のレシートを必ず保管しておいてください。</p> <p>※ATMでは振込人が特定できず、入学検定料の振込確認ができないため絶対に使用しないでください。</p>
研 究 計 画 書 (本要項添付 (橙色) ④～⑨)	<p>p.20の記入方法を参照してください。</p> <p>※記入していない用紙がある場合でも、④～⑨の全ての用紙を提出してください。</p>
志 望 理 由 書 (本要項添付 (黄緑色) ⑩～⑬)	<p>p.20の記入方法を参照してください。</p> <p>※記入していない用紙がある場合でも、⑩～⑬の全ての用紙を提出してください。</p>

「Ⅱ」出願資格別提出書類 (出願資格についてはp.9参照)

出願資格	提 出 書 類
出願資格(1)～(6) ※ア.イ.ウ.全てを提出する必要があります。	<p>ア. 修了証明書 (原本) または修了見込証明書 (原本)</p> <ul style="list-style-type: none"> 修了 (見込みを含む) した大学院が発行したもの。 大学以外の教育施設に置かれた課程 (各省庁大学校) を修了し、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から修士の学位を授与された方は、修了証明書に代えて、同機構が発行した学位授与証明書 (原本) <p>※本学修士課程の修士全科生を修了 (見込みを含む) した方は提出不要です。 (出願票に必ず修士課程の学生番号を記入してください。)</p> <p>イ. 学業成績証明書 (原本)</p> <ul style="list-style-type: none"> 修了 (見込みを含む) した大学院、教育機関が発行したもの。 <p>※本学修士課程の修士全科生を修了 (見込みを含む) した方は提出不要です。 (出願票に必ず修士課程の学生番号を記入してください。)</p> <p>ウ. 以下のいずれか1つの論文</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文 (写) またはそれに準ずる論文 (写) 2部 修士論文を課せられていない場合は、それに代わる論文等 (写) 2部 <p>※本学修士課程の修士全科生を修了 (見込みを含む) した方も必ず提出が必要です。</p> <p>※提出する論文に関する質問は受け付けておりません。 ご自身で判断の上、適切な論文を提出してください。</p>
出願資格(7)～(8)	「Ⅰ」全出願者共通提出書類のみ提出してください。

●外国籍の方は、出願書類と一緒に在留資格証明書類を提出してください。(詳しくはp.5を確認してください。)

2. 出願に際しての注意事項

- ①出願書類に不備があり、不備が解消されない場合には、出願を受理しかねますので、十分注意してください。
- ②提出された出願書類は返還いたしません。**提出する書類はコピー等を取り、必ずご自身で控えをお持ちください。**また、入学検定料は次の場合を除き返還いたしません。
 - ・出願資格がない、または出願が受理されなかった場合
 - ・出願期間終了前に出願辞退の申し出が書面であった場合※出願を辞退されたい場合、メールにて教務課大学院企画・入試係 (in-nyushi@ouj.ac.jp) まで、タイトルを「出願辞退 (博士全科生)」、本文に「氏名、住所、電話番号、出願辞退理由」を記載し、2025年8月25日(月)までにお知らせください。**お電話での出願辞退は承っておりません。**
- ③出願資格が(1)～(6)の中で複数該当する場合には、上位の番号(例：(1)と(2)に該当する場合は(1))の出願資格を選択し、当該出願資格に関する証明書類を提出してください。なお、選択しようとする出願資格が取得見込みであり、下位の番号で既に取得済みの出願資格がある場合は、取得済みの出願資格を優先してください。
- ④現在の氏名と証明書に記載された氏名に変更があった場合
姓のみ変更：変更前後の姓、変更年月日(A4判、様式任意)を記入して出願書類と一緒に提出してください。
姓名の変更、名のみの変更：戸籍・免許証等の変更前と変更後の氏名が確認できる書類の写しを同封してください。
- ⑤保管期間経過等により学業成績証明書が発行されなかった場合は、その旨を記した証明書を修了した教育機関から発行してもらってください。
- ⑥出願書類提出後における記載事項の変更(プログラムの変更等)はできません。
大学からの文書送付先の変更が必要な場合は、郵便局の「転居・転送サービス」をご利用いただき、入学後の住所の変更は、最終合格後にお手続きください。
- ⑦出願に必要な書類は、巻末に綴じ込んである所定の出願用封筒に入れ、必ず、**郵便局に持ち込み、簡易書留郵便または一般書留郵便**で送付してください。普通郵便、特定記録郵便等で送付された場合の未着等に係る責任は負いかねますので、必ず上記方法にてお送りください。また、**出願書類の到着確認対応は行っておりません**ので、日本郵便が行っている「郵便追跡サービス」により、ご自身でご確認ください。また、修士論文等が出願用封筒に入らない場合は、別の封筒をご用意の上、出願用封筒の宛先と同じ住所(私書箱)へお送りください。
- ⑧本出願に関し、虚偽の出願(虚偽の証明書提出等を含む)を行った場合には、出願の受理を取り消します。
- ⑨外国の学校等で証明書の発行等が行われていない場合は、教務課大学院企画・入試係 (in-nyushi@ouj.ac.jp) へご相談ください。
- ⑩修了証明書と学業成績証明書が一体となっている証明書も提出可とします。
- ⑪出願書類を受理した後、2025年9月9日(火)に「受験票」および「第1次選考の場所、受験に際しての注意事項」等を発送します。なお、9月16日(火)までに到着しない場合は、教務課大学院企画・入試係へお問い合わせください。

3. 出願書類の記入方法等

I 出願票の記入方法について

「出願票」は本要項巻末に綴じ込んである専用用紙を用い、以下の点に注意して記入してください。

記入にあたっては、黒色または青色のボールペン、万年筆（鉛筆は不可）を使用し、誤記入等をした場合には、二重線で消し、余白に正しい内容を記入してください。

博士全科学出願票 出願票書き方見本

2026年度用

※大学事務局記入欄 **出願票 ①**

A	
---	--

カタカナ記入（姓と名の間は1マスあけ、濁点等は1マス使用）

① 氏名 **ハクシ タロウ**

漢字等記入（姓と名の間は1マスあける）

博士 太郎

※郵便物宛名 別の氏名で郵便物の受け取りが可能で、希望する方のみ記入

フリガナ

漢字 (姓) (名)

② 性別

男	女
①	2

③ 生年月日

年（西暦）	月	日
19600301		

⑥ 外国籍の方は下記1を○で囲み、国名を記入

外国籍の方のみ 国 名

下記1を○で囲む

1

④ プログラム（所属を希望するプログラムを1つだけ○で囲むこと）

生活健康科学	人間科学	社会経営科学	人文学	情報学	自然科学
N	①	P	Q	S	R

⑦ 障がいのある方で事前申請により合理的配慮を認められた方は右欄の1を○で囲む

1

⑤ 所属学習センター等（所属を希望する学習センター等のコード番号を1つだけ○で囲む）

北海道	旭川	青森	八戸	岩手	宮城	秋田	山形	福島	いわき	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉
01A	01S	02A	02S	03A	04A	05A	06A	07A	07S	08A	09A	10A	11A	12A
東京渋谷	東京文京	東京足立	東京多摩	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	浜松	愛知
13E	①	13C	13D	14A	15A	16A	17A	18A	19A	20A	21A	22A	22S	23A
三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	姫路	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	福山	山口	徳島
24														36A

(1)電話番号は試験当日確実に連絡が取れる携帯またはご自宅の電話番号を記入してください。

(2)緊急連絡先はご家族・実家などご本人以外の電話番号を記入してください。

⑧ 郵便番号 **261-8586**

都道府県 **千葉県**

現住地 郡市区町村 **千葉市美浜区**

町・丁目・番地 **若葉2-1-1**

団地・棟・号 **若葉マンション 201号**

方等

本人電話番号 (043)-(276)-(5111)

緊急連絡先 氏名 (博士 花子) 電話番号 (043-298-4111) 続柄コード **3**

本人メールアドレス **○○○@ouj.ac.jp**

◆続柄コード一覧

コード	続柄	コード	続柄
1	親	4	子
2	兄弟姉妹	5	その他親族
3	配偶者	6	親族以外

博士全科学出願資格確認欄

出願資格をA～Gから1つ選び○で囲み、次に「1」または「2」を○で囲むこと。

◎出願資格(1)に該当する方

出願資格	学位授与	学位授与見込	
		1	2
⑨ A 放送大学 修士課程修士全科学	①	2	2
B 他大学の大学院	1	2	2

◎出願資格(2)(3)に該当する方

出願資格	学位授与	学位授与見込
⑩ C 外国の大学の大学院	1	2

◎出願資格(4)に該当する方

出願資格	学位授与	学位授与見込
⑩ D 外国の大学の大学院の日本校	1	2

◎出願資格(5)に該当する方

出願資格	学位授与	学位授与見込
⑩ E 国際連合大学	1	2

◎出願資格(6)に該当する方

出願資格	学力ありと認められた	学力ありと認められる見込
⑩ F 出願資格(6)該当者	1	2

◎出願資格(7)(8)に該当する方

出願資格	出願資格認定番号を記入
⑩ G 出願資格事前審査認定者	—

⑬ 放送大学修士課程修士全科学に合格したことがある方は、「1」を○で囲み、修士課程の学生番号がわかるときは番号を記入

合格したことがある方のみ○で囲む

①

修士課程の学生番号

022-812345-6

学生番号を忘れた方で在学当時から氏名が変わった方は当時の氏名をご記入ください。

当時の氏名

⑭ 放送大学博士後期課程に在籍したことがある方は「1」を○で囲み、博士後期課程の学生番号がわかるときは番号を記入

在籍したことがある方のみ○で囲む

①

博士後期課程の学生番号

851-123456-7

学生番号を忘れた方で在学当時から氏名が変わった方は当時の氏名をご記入ください。

当時の氏名

放送大学大学院

〔記入上の注意事項〕

顔写真

3ヵ月以内の撮影で、前向き、上半身、無帽、縦30mm×横24mmの大きさのものを用意し、裏面に電話番号・氏名を記入のうえ貼付してください。

こちらの顔写真は、入学者選考中の本人確認に使用するほか、入学後、本学の教務情報システム（システムWAKABA）「学生カルテ」や、学生証の写真に使用します。

氏名【①欄】

(1) カタカナ記入欄に、氏名をカタカナで記入してください。その際、姓と名の間は1マスあけ、濁点等の記入にあたっては1マスを使用してください。

氏名を漢字以外で表記している外国人の方は、ミドルネームを省略し、ファーストネームを先に、ラストネームを後にして、カタカナで記入してください。

(2) 漢字等記入欄に、氏名を漢字等で記入してください。その際、姓と名の間は1マスあけてください。

- ・本学におけるウェブ画面での表示や各種証明書（学生証・学位記含む）の氏名等の文字は、コンピュータで処理を行う関係上、JIS水準（JIS2004）1～2程度の文字までの取扱いとなりますので、あらかじめご了承ください。
- ・外国籍を有する方は在留カード、旅券等に記載されている氏名を記入してください。

※特殊な文字については、JIS水準（JIS2004）1～2程度の文字に置きかえられるか、カタカナ等で表記されます。

カタカナ記入（姓と名の間は1マスあけ、濁点等は1マス使用）	
① 氏名	ハクシ タロウ
漢字等記入（姓と名の間は1マスあける）	
氏名	博士 太郎

生年月日【③欄】

西暦で記入してください。

プログラム【④欄】

所属を希望するプログラムを1つだけ○で囲んでください。

所属学習センター等【⑤欄】

所属を希望する学習センター等のコード番号を1つだけ○で囲んでください。所属学習センター等欄に記入がない場合、現住所に記載された都道府県内の学習センター所属とさせていただきます（現住所が東京都で未記入の方は、東京文京学習センター所属とさせていただきます）。

※原則として所属を希望する学習センターが、第1次選考（筆記試験）の試験会場となります。ただし、東京渋谷学習センターの所属を希望する方は、試験会場の都合上、東京文京学習センターでの受験となりますのでご注意ください。

また、サテライトスペースの所属を希望する方は、当該道県内の学習センターでの受験となります。

〔注1〕学習センターのランチ的な機能を有する施設として、サテライトスペースを設置しています。

サテライトスペースを所属希望とされた方は、学費振り込み確認後に送付する入学許可書の所属センター欄に、「北海道学習センター（旭川）」、「青森学習センター（八戸）」、「福島学習センター（いわき）」、「静岡学習センター（浜松）」、「兵庫学習センター（姫路）」、「広島学習センター（福山）」、「福岡学習センター（北九州）」と表示されます。

〔注2〕所属を希望する学習センターと筆記試験の受験を希望する学習センターが異なる場合、出願時には受験を希望する学習センターを選択し、合格後に所属学習センター変更の手続きを行ってください。

外国籍【⑥欄】

外国籍の方のみ「1」を○で囲み、「国名」欄に国名を記入してください。

日本国籍の方は、記入は不要です。

⑥ 外国籍の方は下記の1を○で囲み、国名を記入	
外国籍の方のみ	国名
下記1を○で囲む	カナダ
①	

障がいのあることによる受験上の合理的配慮【⑦欄】

障がいのある方で、第1次選考（筆記試験）または第2次選考（面接試問）において合理的配慮を希望される方は、「合理的配慮申込届」をあらかじめ提出していただきます。詳細はp.4「1. 障がいのある方で特別な支援を希望される方」を参照ください。同申込届の提出により合理的配慮が認められた方は「1」を○で囲んでください。

障がいのある方であっても合理的配慮を希望しない方については、記入は不要です。

※p.4記載の提出期限内に合理的配慮申請書類の提出がなされなかった方が○を囲まれた場合、無効となりますのでご注意ください。

現住所等【⑧欄】

書き方見本を参考にして、「郡市区町村」と「町・丁目・番地、団地・棟・号、方等」は、欄を分けて記入してください。また、町、丁目、番地等ごとにハイフン（-）でつなげて記入してください。アパート・マンション等にお住まいの方は、建物名も記入してください。

連絡先について、本人電話番号は確実に連絡が取れる携帯またはご自宅の電話番号を記入してください。また、緊急連絡先はご家族・実家など、ご本人以外の電話番号を記入してください。

なお、記入する本人メールアドレスについては、本学ドメイン「ouj.ac.jp（後方一致）」からのメールを受信できるように、あらかじめ設定をお願いします。

博士全科学の出願資格確認【⑨～⑫欄】

博士全科学の出願資格（p.9「1. 出願資格」参照）を確認の上、出願資格確認欄の該当記号を○で囲んでください。

出願資格（7）（8）に該当する方は、⑫欄に出願資格認定通知書に記載の出願資格認定番号を必ず記入してください。

放送大学修士課程修士全科学の出願経験【⑬欄】

本学修士課程修士全科学に合格したことがある方は、「1」を○で囲み、学生番号がわかる場合は番号を記入してください。修士全科学に合格したが入学しなかった等の理由により、学生番号が不明であっても、該当者は必ず○で囲んでください。学生番号を忘れた方で在籍当時から改姓された方は、「当時の氏名」欄に旧姓をご記入ください。

〔注〕出願資格（1）でAを選んだ方は、必ず学生番号を記入してください。

学生番号が未記入の場合、個人の特定ができず、修了や成績等の確認ができなくなることがありますので、ご注意ください。

放送大学博士後期課程博士全科学の出願経験【⑭欄】

本学博士後期課程博士全科学に合格したことがある方は、「1」を○で囲み、学生番号がわかる場合は番号を記入してください。博士全科学に合格したが、入学しなかった等の理由により、学生番号が不明であっても、該当者は必ず○で囲んでください。学生番号を忘れた方で在籍当時から改姓された方は、「当時の氏名」欄に旧姓をご記入ください。

博士全生出願票 出願票書き方見本
2026年度用

※大学事務局記入欄

出願票 ②

受験番号	
------	--

氏名	博士 太郎
----	-------

⑭ 職業 (該当するものを1つだけ○で囲む)												
教員	公務員・団体職員等	会社員等	自営業・自由業	農林水産業等従事者	看護師等	専業主婦(夫)	パートタイマー	アルバイト等	他大学・専門学校等に在籍する学生	定年等退職者	無職(G、K以外の方)	その他
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M

職 歴	
年 月	事 項
2003年 4月 ~ 2010年 3月	放送大学 事務局 学務部 教務課
2010年 4月 ~ 年 月	○× 商事 企画課
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	
年 月 ~ 年 月	

※記入欄が不足する場合は、直近の履歴や、研究計画に関連する履歴を優先し、指定欄に収まるよう適宜記載すること。

⑮ 最終出身学校 (該当するものを1つだけ○で囲む)									
新制の中学校等	旧制の青年学校等	旧制の中学校等	専修学校高等課程等	高等学校等	短期大学等	専修学校専門課程等	大 学	大 学 校	大 学 院
1	2	3	4	5	6	7	8	9	A

学 歴 (大学の研究生等を含む)	
年月 (入学・卒業・修了・退学等)	事 項
2000年 4月 入学 ~ 2008年 3月 卒業	放送大学 教養学部 教養学科 生活と福祉コース
2008年 4月 入学 ~ 2012年 3月 修了	放送大学大学院 文化科学研究科・文化科学専攻修士課程
年 月 入学 ~ 年 月	
年 月 入学 ~ 年 月	
年 月 入学 ~ 年 月	
年 月 入学 ~ 年 月	
年 月 入学 ~ 年 月	
年 月 入学 ~ 年 月	

※高等学校等卒業後からの学歴 (入学年月、卒業年月) を記入してください。

※記入欄が不足する場合は、直近の履歴や、研究計画に関連する履歴を優先し、指定欄に収まるよう適宜記載すること。

職業【⑭欄】

下記の表を参照の上、該当するコードを選択し○で囲んでください。

(注) 統計資料等の作成に使用するもので合否には影響しません。

コード	職業	内容
A	教 員	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、大学等において教職に従事する方
B	公務員・団体職員等	国家公務員および地方公務員（国立大学法人等の職員を含む）。ただし、教員の方は、Aの「教員」また看護師の方は、Fの「看護師等」としてください。
C	会 社 員 等	上記A、B以外の企業または団体等に勤務する方（派遣社員、契約社員を含む）
D	自 営 業 ・ 自 由 業	商店等を個人で営む方、文筆業、開業医師等
E	農 林 水 産 業 等 従 事 者	農業、林業、漁業等に従事する方
F	看 護 師 等	看護師、准看護師、保健師、助産師、他医療関係者
G	専 業 主 婦（ 夫 ）	専業主婦（夫）の方
H	パ ー ト タ イ マ ー	パートタイムで仕事をされている方
I	ア ル バ イ ト 等	アルバイト・フリーター等で仕事をされている方。ただし、他大学等の学生でアルバイトをしている方は、Jの「他大学・専門学校等に在籍する学生」としてください。
J	他大学・専門学校等に在籍する学生	他の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校等の学生である方
K	定 年 等 退 職 者	定年等により退職し、現在、職業をもたない方
L	無 職（G、K以外の方）	GおよびKの分類に該当しない職業をもたない方
M	そ の 他	上記のAからLまでの分類に該当しない方

最終出身学校【⑮欄】

下記の表を参照の上、該当する最終出身学校（卒業・修了見込みの方は在学中の学校、中途退学した学校を除く）のコードを○で囲んでください。

(注) 統計資料等の作成に使用するもので合否には影響しません。

コード	最終出身学校の種類	主 な 学 校 の 種 類
1	新 制 の 中 学 校 等	小学校、中学校、特別支援学校（盲学校・ろう学校・養護学校）の小学部・中学部、国民学校の初等科・高等科、尋常小学校、通信講習所普通科
2	旧 制 青 年 学 校 等	青年学校本科、陸海軍工員養成所、実業補習学校
3	旧 制 の 中 学 校 等	旧制の中学校、高等女学校、実業学校、鉄道教習所（中等部・普通部）、通信講習所高等科、陸軍幼年学校、海軍甲種予科練
4	専 修 学 校 高 等 課 程 等	専修学校高等課程、准看護師養成所
5	高 等 学 校 等	高等学校、中等教育学校、特別支援学校（盲学校・ろう学校・養護学校）の高等部、師範学校本科第1学年修了、師範学校予科4年課程、大学入学資格検定合格、高等学校卒業程度認定試験合格
6	短 期 大 学 等	短期大学、工業・商船高等専門学校、旧制の高等学校高等科、大学予科、旧制の専門学校、高等師範学校、青年学校教員養成所、高等通信講習所本科（3年以上の科）、陸軍士官学校、海軍兵学校、旧国立工業教員養成所
7	専 修 学 校 専 門 課 程 等	看護専門学校等各種の専修学校専門課程、都道府県立農業講習所、看護師養成所、図書館職員養成所
8	大 学	大学（旧制大学を含む）、大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された方
9	大 学 校	気象大学校・海上保安大学校等各種の大学校
A	大 学 院	大学院

II 「研究計画書」の記入方法について

「研究計画書」は、本要項巻末に綴じ込んである専用用紙を用い、以下の点に注意して記入してください。
記入にあたっては、黒色または青色のボールペン、万年筆を使用してください（鉛筆は不可）。ワープロ、パソコン等で作成する場合には、文字サイズを9ポイント以上としてください。

1 研究テーマ

入学後、どのような主題を研究したいと考えているのか**具体的に**記入してください。（40字以内）

例えば、「通信制大学院について」といった大まかな表現ではなく、「通信制大学院における指導方法の提案－メディア利用の有効性と課題－」など、具体的に何を研究しようとしているのかが分かるように記入してください。

2 研究計画

「1 研究テーマ」に係る研究の意義、入学後の学習や研究の進め方、および期待される研究の成果などについて、できるだけ**具体的に**記入してください。（2,000～3,000字程度）

研究計画の立て方・内容に関する相談は受け付けておりませんので、ご了承ください。

別紙に書いたもの、ワープロ、パソコン等で出力したものを貼ることは可としますが、**必ず枠内に収め、はがれないようしっかりとのり付けしてください。**

「折り曲げて貼る」、「2枚以上重ねて貼る」、「裏面に貼る」、「別紙を添付する」、「作成物を送付する」等の場合は出願書類として受理しません。

3 修士論文

修士論文等を作成した方は、その題目と概要を記入してください。（2,000字程度）

複数作成している場合は、いずれか1つについて記入してください。なお、修了見込みの方で現在作成中の場合は、題目の末尾に（作成中）と記入し、その概要を記入してください。

別紙に書いたもの、ワープロ、パソコン等で出力したものを貼ることは可としますが、**必ず枠内に収め、はがれないようしっかりとのり付けしてください。**

「折り曲げて貼る」、「2枚以上重ねて貼る」、「裏面に貼る」、「別紙を添付する」、「作成物を送付する」等の場合は出願書類として受理しません。

4 主な業績一覧表

主な業績を記入してください。著者名欄には、自身の氏名は「本人」とし、著者記載順に記入してください。（例：放送一郎、本人、博士次郎…）

III 「志望理由書」の記入方法について

「志望理由書」は、本要項巻末に綴じ込んである専用用紙を用い、以下の点に注意して記入してください。
記入にあたっては、黒色または青色のボールペン、万年筆を使用してください（鉛筆は不可）。ワープロ、パソコン等で作成する場合には、文字サイズを9ポイント以上としてください。

1 希望する主研究指導教員

同封の「大学院案内」を参照し、所属を希望するプログラムの**博士後期課程担当本学専任教員**から、希望する主研究指導教員（1名）を記入してください。主研究指導教員は、願書の研究テーマや研究計画書をもとに、入学試験面接試問等により領域適合性等を確認し、本学が最適と判断した教員を決定しますので、必ずしも希望どおりになるとは限りません。主研究指導教員は、入学後の「入学時オリエンテーション」で各プログラムから発表されます。

専任教員の研究分野や所属学会等の詳細は、下記ウェブサイトでご確認いただけます。

プログラムの選択や研究計画等を検討する際に参考にしてください。

○researchmap 研究者情報 <https://researchmap.jp/researchers>

▼researchmap
研究者情報



2 志望理由

以下の4点について、各項目の冒頭に該当する番号を記入の上、**具体的に**記入してください。

- ①これまでの経歴・経験・実績等をふまえ、研究テーマを選ぶに至った理由とその背景
- ②その研究テーマに関するこれまでの成果および業績
- ③そのテーマを研究する場として本学大学院を選んだ理由
- ④希望する主研究指導教員を選んだ理由

別紙に書いたもの、ワープロ、パソコン等で出力したものを貼ることは可としますが、**必ず枠内に収め、はがれないようしっかりとのり付けしてください。**

「折り曲げて貼る」、「2枚以上重ねて貼る」、「裏面に貼る」、「別紙を添付する」、「作成物を送付する」等の場合は出願書類として受理しません。

1. 入学手続・科目登録申請

最終合格された方に対し、「合格通知書」と入学手続・科目登録申請手続に関する書類を送付します。(科目登録の申請期間は、2026年2月中旬～下旬の予定です。)

＝注意事項＝

- 出願資格のうち、「修了見込み」で出願された方は、修了が確定した時点で、修了証明書の原本を提出してください。本学修士課程修了見込みの方は本学で確認しますので提出は不要です。
なお、2026年3月31日(火)(必着)までに原本の提出がない場合には、入学を許可できません。(修士課程修了見込みで出願された方が、同年3月31日までに修了できなかった場合も入学は許可できません。) 証明書類はできるだけ早く提出してください。
- 入学手続・科目登録申請期間内に当該手続が行われなかった場合は、入学を辞退したものと取り扱います。
- 入学を辞退される場合は、必ず、「入学辞退届」(提出年月日・氏名・受験番号・辞退事由を明記し本人署名、捺印したもの、A4判、様式任意)を、2026年3月31日(火)までに、簡易書留郵便または一般書留郵便により教務課大学院企画・入試係へ提出してください。お電話での入学辞退の連絡は承っておりません。
- 外国籍の方は、入学手続までに大学院入学に支障のない在留資格を取得してください。

提出先 〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
放送大学学務部教務課大学院企画・入試係

2. 学費(入学金・授業料・研究指導料)の納入

入学金の納入は、「合格通知書」送付時に振込先の口座をお知らせしますので、2026年1月30日(金)までに払い込んでください。期限内の入金が確認できない場合、入学を辞退したものと取り扱う場合がございます。

授業料・研究指導料の納入は、科目登録終了後、3月上旬に科目登録決定通知書と併せて授業料・研究指導料の振込依頼書を送付しますので、2026年3月31日(火)までに一括して払い込んでください。授業料・研究指導料の入金確認後に入学許可書等を送付しますので、払込期間内に早めに払い込んでください。納入方法の詳細は、振込依頼書および本学ウェブサイトに記載されていますので、授業料・研究指導料の払込前に必ずご確認ください。

※学費払込指定口座(銀行)はみずほ銀行のみとなります。なお、学費の納入金額に応じて、別途、払込手数料が必要となりますので、ご了承ください。また、ATM・インターネットバンキングからの払い込みは、受け付けておりません。金融機関等の窓口をご利用ください。

学費の種類	金額	納入期限
入学金	48,000円	2026年1月30日(金)
授業料	48,000円/単位	2026年3月31日(火)
研究指導料	384,000円/年	

＝注意事項＝

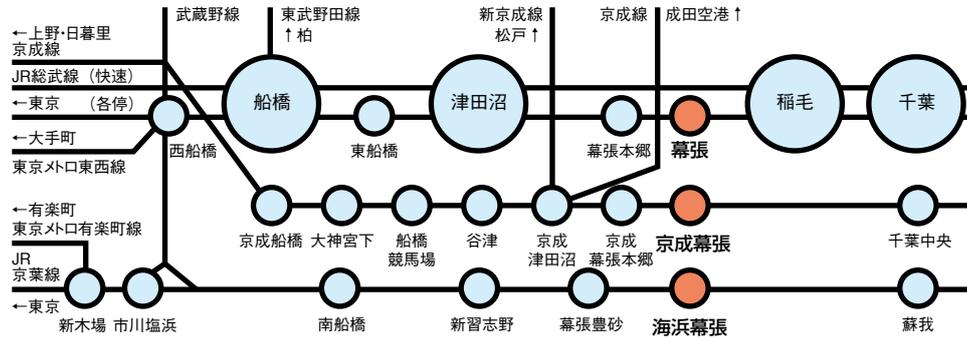
- 入金確認には7日程度かかります。
入金が確認されるまで入学許可書等は送付されませんので、振込期間内にお早めにお振り込みください。
- いったん納入された学費は、学期開始前に入学辞退の申し出があった場合の授業料および研究指導料を除き、一切返還しません。
- 学費の振込依頼書に記載された支払期限までに本学に入金がなかった場合または同依頼書に記載された学費の額に満たない金額が払い込まれた場合には、決定された科目登録は全て無効となり、入学についても許可できませんので、ご注意ください。
- 在学中に授業料・研究指導料が改定された場合には、改定時から新授業料・研究指導料が適用されます。
- 大学院博士後期課程入学時オリエンテーション、研究指導、博士論文口頭試問等を受けるための交通費等の経費はご本人負担となります。(交通機関によっては、学割の利用も可能です。)

3. 入学時期

入学日は2026年4月1日(水)となります。

1. 本部

<路線図>



<周辺マップ>



1 電車利用

JR総武線幕張駅／京成電鉄千葉線京成幕張駅南口 下車
海岸方面へ1km（徒歩15分）
JR京葉線海浜幕張駅北口 下車
北方向へ1km（徒歩15分）

2 車利用（東京方面から）

首都高速→京葉道路→幕張I.C.→幕張5丁目信号右折400m
高速道路→東関東自動車道→湾岸習志野I.C.→1km（2つめ信号左折）

※放送大学本部構内には限られた駐車スペースしかありませんので、公共交通機関のご利用にご協力ください。障がいのある方で、試験場における専用駐車場の用意が必要な方は、「合理的配慮申込届」を申請期間内にご提出ください。（p.4参照）

3 本部所在地等

〒261-8586
千葉県千葉市美浜区若葉2丁目11番地
電話 043-276-5111（総合受付）
放送大学ウェブサイト www.ouj.ac.jp

月曜及び学習センターが定める曜日、祝日、年末年始及び臨時閉所時は利用できません。

2. 学習センター・サテライトスペース

※最新のアクセス情報は必ずご自身でお調べください。

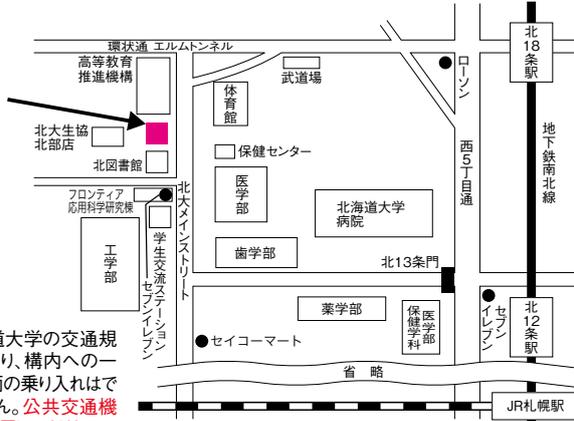
北海道学習センター

☎011-736-6318
FAX 011-736-6319

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目(北海道大学構内)

- 地下鉄利用：地下鉄南北線「北18条駅」から徒歩で約10分
- 徒歩：JR札幌駅北口から約20分

北海道学習センター
北海道大学札幌キャンパス
情報教育館5・6階



※北海道大学の交通規制により、構内への一般車両の乗り入れはできません。公共交通機関を利用してください。

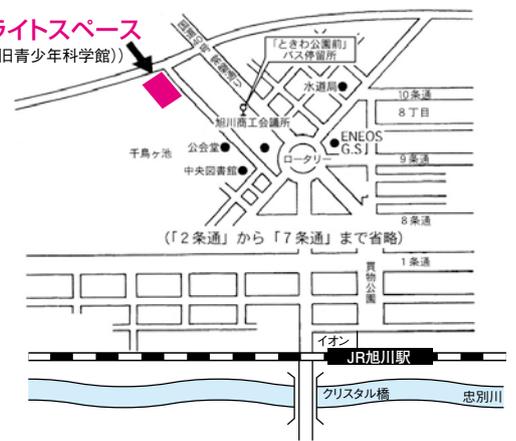
旭川サテライトスペース

☎0166-22-2627
FAX 0166-22-2676

〒070-0044 旭川市常磐公園(旭川市常磐館内)

- バス利用：JR旭川駅前から旭橋経由のバスで「ときわ公園前」下車徒歩3分
- 徒歩：JR旭川駅から買物公園を通過して約25分

旭川サテライトスペース (旭川市常磐館(旧青少年科学館))



青森学習センター

☎0172-38-0500
FAX 0172-38-1299

〒036-8003 弘前市駅前町9-20 ヒロコ4階

- 徒歩：JR弘前駅(中央口)から約5分

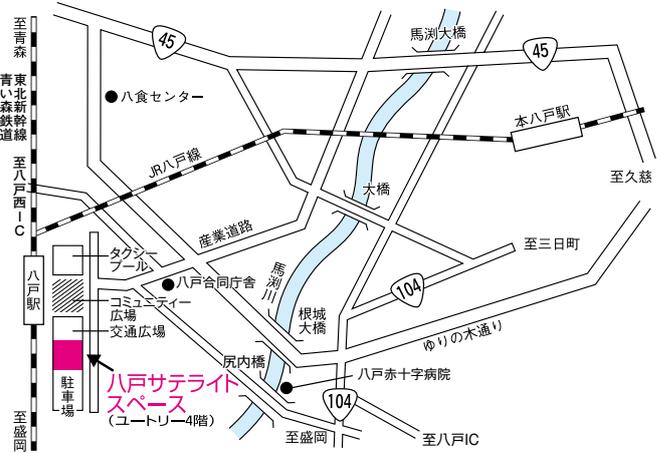


八戸サテライトスペース

☎0178-70-1663
FAX 0178-70-1667

〒039-1102 八戸市一番町1-9-22(ユートリー4階)

- JR八戸駅から徒歩1分
- 八戸自動車道八戸IC・八戸スマートICから車で約7分

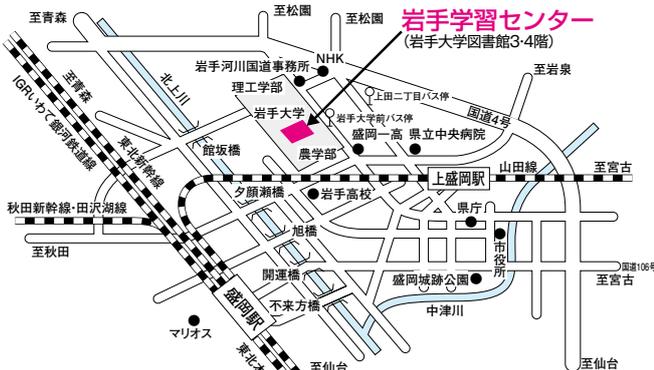


岩手学習センター

☎019-653-7414
FAX 019-653-7410

〒020-8550 盛岡市上田3-18-8(岩手大学構内)

- JR盛岡駅から徒歩25分
- JR上盛岡駅から徒歩15分
- JR盛岡駅東口バスターミナル①番乗り場から岩手県交通バス・駅上田線「松園バスターミナル行」に乗りし、「岩手大学前」バス停で下車。岩手大学正門から徒歩2分
- JR盛岡駅への帰りのバス停は、別の通りにあります。学習センターで地図を用意していますのでご利用ください。

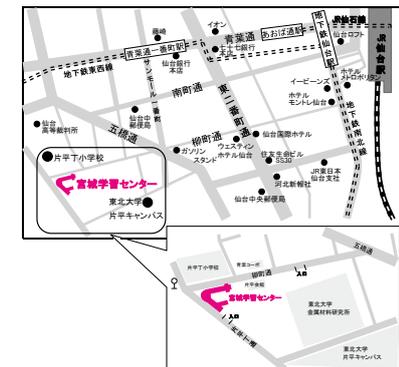


宮城学習センター

☎022-224-0651
FAX 022-224-0585

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1(東北大学片平キャンパス内)

- JR仙台駅(西口)から徒歩：JR仙台駅前(イービーズ前)を南へ約1分、「ホテルモントレ仙台」角を右折し、柳町通を西へ約15分
- 地下鉄：東西線「青葉通一番町」駅(南1番出口)から徒歩約10分
- バス：JR仙台駅西口バスプール11番のりばから仙台市営バス「緑ヶ丘三丁目」行、「八木山動物公園」行、12番のりばから宮城交通バス「長町駅東口」行(いずれも霊屋橋・動物公園経由)のいずれかに乗りし、「片平丁小学校前」で下車、徒歩2分
- タクシー：約5分



秋田学習センター

☎ 018-831-1997
FAX 018-837-4885

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1(秋田大学手形キャンパス内)

- JR秋田駅から徒歩25分
- JR秋田駅西口秋田中央交通バス乗り場⑫番 手形山經由大学院線(大学院行)「鉱業博物館入口」下車徒歩3分
- 秋田大学北門から徒歩1分

秋田学習センター (秋田大学手形キャンパス研究・イノベーション拠点2号館4階)



山形学習センター

☎ 023-646-8836
FAX 023-646-8838

〒990-8580 山形市城南町1-1-1(霞城セントラル10階)

- JR山形駅から東西自由通路アピカで徒歩5分
- 主な駐車場(有料)①霞城セントラルパーキング ②山形駅西口駐車場 ③山形駅東口交通センター駐車場 ④24h山形駅西口駐車場 ⑤山形駅ビル駐車場 ⑥県民べにばな駐車場

山形学習センター (霞城セントラル10階)



福島学習センター

☎ 024-921-7471
FAX 024-921-7814

〒963-8025 郡山市桑野1-22-21

- バス:郡山駅から福島交通バスで20分
- ①市役所経由で郡山女子大学下車 徒歩3分 (9番ボール新池下団地行、大槻行、希望ヶ丘行等)
- ②麓山経由で開成館前下車 徒歩5分(11番ボール大槻行、休石行等)

福島学習センター



いわきサテライトスペース

☎ 0246-22-7318
FAX 0246-22-7320

〒970-8026 いわき市平字菱川町1番地の3(いわき市社会福祉センター4階)

- JRいわき駅から徒歩13分(約1km)

いわきサテライトスペース (いわき市社会福祉センター4階)



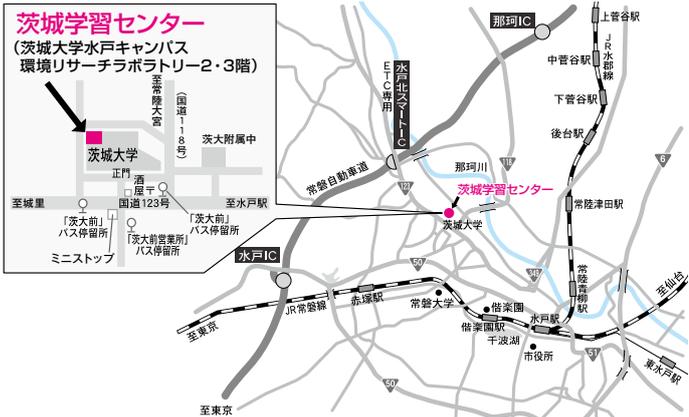
茨城学習センター

☎ 029-228-0683
FAX 029-228-0685

〒310-0056 水戸市文京2-1-1(茨城大学構内)

- 水戸駅北口からバス約30分
バスターミナル⑦番栄町經由茨大前行「茨大前」下車徒歩5分
- 水戸ICから車約20分 ■那珂ICから車約20分
- 水戸北スマートIC(※ETC専用)から車約10分

茨城学習センター (茨城大学水戸キャンパス 環境リサーチラボラトリー2・3階)



栃木学習センター

☎ 028-632-0572
FAX 028-632-0570

〒321-0943 宇都宮市峰町350(宇都宮大学峰キャンパス内)

- JR宇都宮駅
 - 徒歩(東口から)約30分(約2.2km)
 - バス:西口④番乗り場から約15分「宇都宮大学前」下車徒歩2分
 - :東口③番乗り場から宇大循環線(左回り) 約10分「宇都宮大学前」下車徒歩2分(※1時間に1本以下の運行)
- LRT(路面電車)宇都宮駅東口乗場から約5分「峰停留場」下車徒歩10分

栃木学習センター (宇都宮大学峰キャンパス内)



群馬学習センター

☎ 027-230-1085
FAX 027-230-1094

〒371-0032 前橋市若宮町1-13-2

- JR前橋駅北口から徒歩30分
- 上毛電鉄中央前橋駅から徒歩15分
- JR前橋駅北口からバスを利用
県民会館前下車徒歩5分(バス乗車時間8分)
- ③番乗り場(日本中央バス)→群馬総社駅行
- ⑥番乗り場(関越交通バス)→富士見温泉行
(日本中央バス)→富士見温泉、富士見公民館行
(永井運輸)→嶺公園、小坂子、萩窪公園行



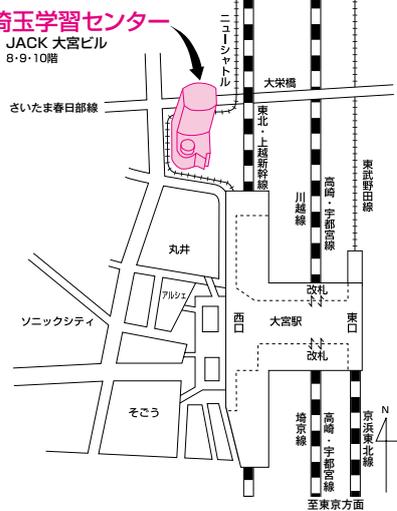
埼玉学習センター

☎ 048-650-2611
FAX 048-650-2615

〒330-0853 さいたま市大宮区錦町682-2(JACK大宮ビル)

- 大宮駅西口から徒歩5分

埼玉学習センター
JACK大宮ビル
6・9・10階

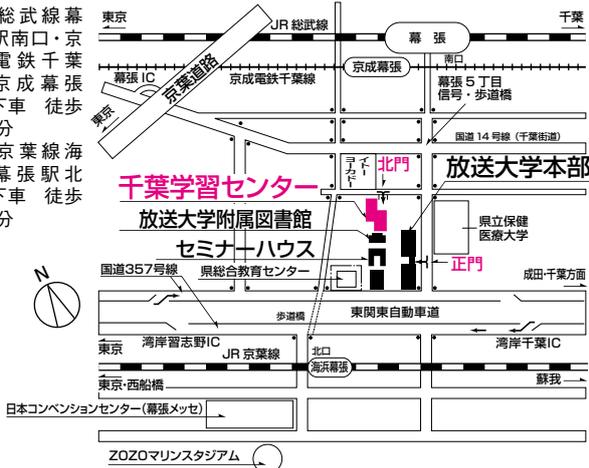


千葉学習センター

☎ 043-298-4367
FAX 043-298-4386

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11(放送大学本部敷地内)

- JR総武線幕張駅南口・京成電鉄千葉線京成幕張駅下車 徒歩15分
- JR京葉線海浜幕張駅北口下車 徒歩15分



東京渋谷学習センター

☎ 03-5428-3011
FAX 03-5428-3015

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-10-7(五島育英会ビル1階)

- JR渋谷駅西口または新南口から徒歩5分(国道246号線沿い)
- 利用可能路線: JR(山手線/埼京線/湘南新宿ライン)/
東京メトロ(半蔵門線/副都心線/銀座線)/
東急(東横線/田園都市線)京王井の頭線

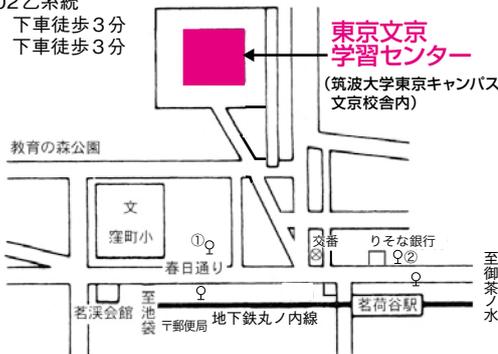


東京文京学習センター

☎ 03-5395-8688
FAX 03-5395-8681

〒112-0012 文京区大塚3-29-1

- 地下鉄東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車(出口1)徒歩3分
- 都営バス 都02系統 都02乙系統
- ①窪町小学校 下車徒歩3分
- ②茗荷谷駅前 下車徒歩3分



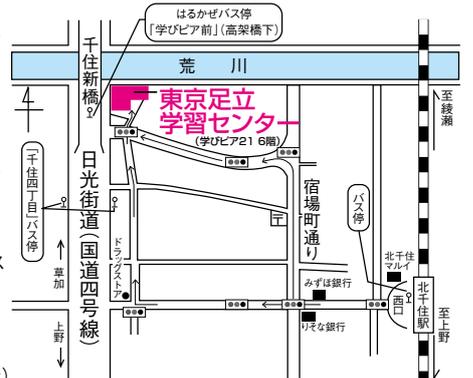
東京足立学習センター

☎ 03-5244-2760
FAX 03-5244-2762

〒120-0034 足立区千住5-13-5(学びピア21(6階))

- 《電車》
北千住駅西口から徒歩15分
利用可能路線: JR常磐線・東京メトロ(日比谷線、千代田線)、東武スカイツリーライン、つくばエクスプレス
- 《バス》

- 都バス
『千住四丁目』下車5分(北47系統)
(北千住駅⇄足立清掃工場前)
- 東武バス
『千住四丁目』下車5分(北11系統)
(北千住駅⇄花畑車庫)
- 足立コミュニティバス
はるかぜ
『学びピア前』下車1分
(5号:北千住駅西側地域循環)
(8号:小台・宮城循環)
(11号:堀之内・椿循環)

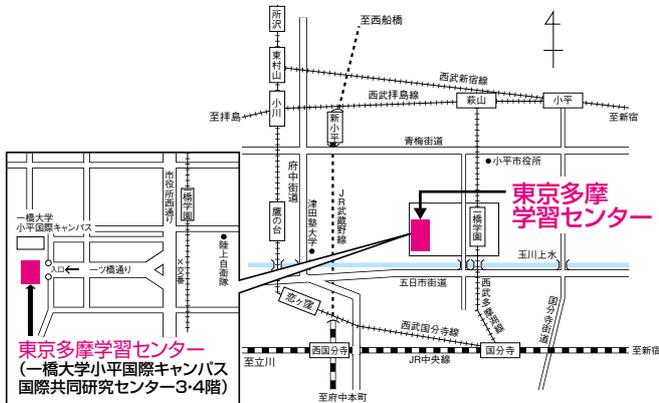


東京多摩学習センター

☎042-349-3467
FAX 042-349-3468

〒187-0045 小平市学園西町1-29-1(一橋大学小平国際キャンパス内)

■西武多摩湖線「一橋学園駅」下車 南口から徒歩約7分

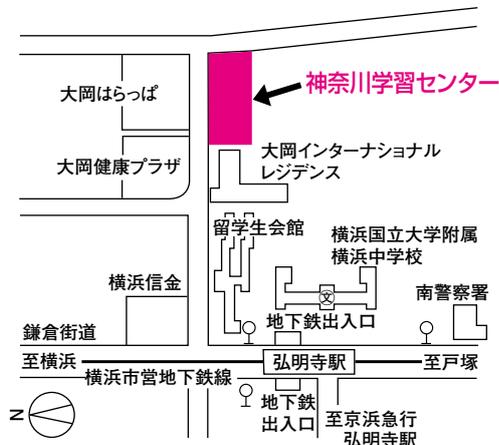


神奈川学習センター

☎045-710-1910
FAX 045-710-1914

〒232-8510 横浜市南区大岡2-31-1

■市営地下鉄弘明寺駅下車徒歩5分
■京浜急行弘明寺駅下車徒歩12分

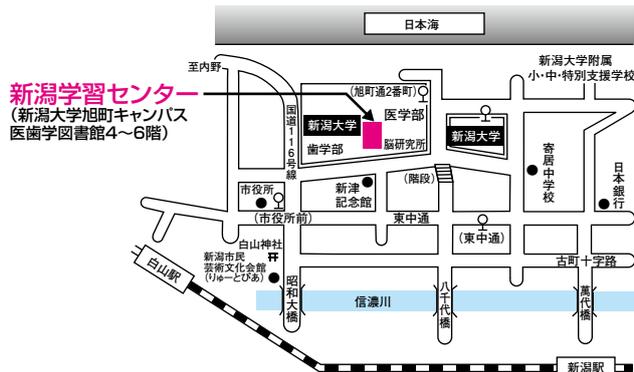


新潟学習センター

☎025-228-2651
FAX 025-228-2582

〒951-8122 新潟市中央区旭町通1番町754(新潟大学旭町地区内)

■新潟駅万代口バスターミナル9番乗り場から「浜浦町線」に乗車(約15分)「旭町通2番町」で下車徒歩約5分、往路のみ
■新潟駅万代口バスターミナル7番乗り場「西小針線」または8番乗り場「信濃町線」に乗車(約15分)「市役所前」下車 徒歩約10分

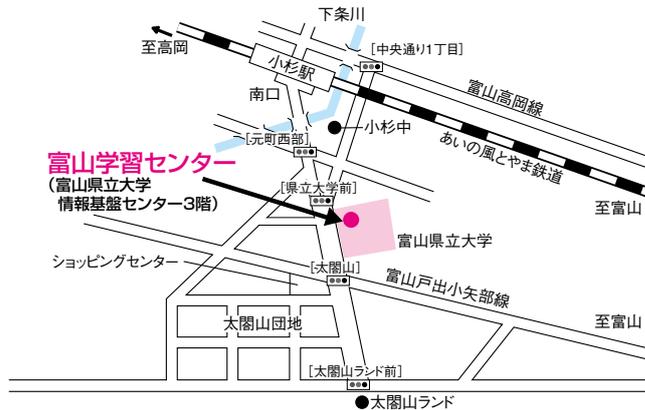


富山学習センター

☎0766-56-9230
FAX 0766-56-9232

〒939-0311 射水市黒河5180(富山県立大学 情報基盤センター3階)

■あいの風とやま鉄道小杉駅下車
徒歩：南口から約20分(約1.5km)
タクシー：あいの風とやま鉄道小杉駅北口から約10分

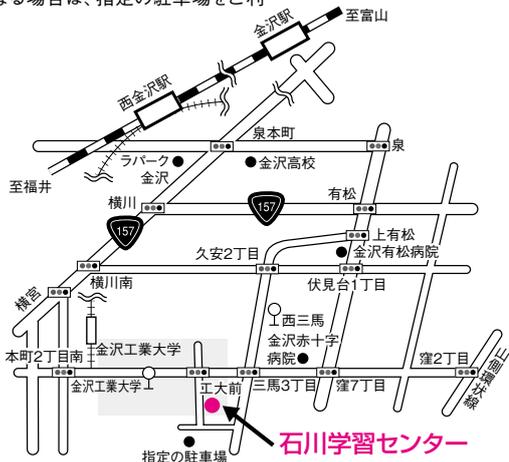


石川学習センター

☎076-246-4029
FAX 076-246-4102

〒921-8812 野々市市扇が丘7-1

■金沢駅東口バスターミナルより、金沢工業大学行乗車(約35分)、金沢工業大学下車
■車で越しになる場合は、指定の駐車場をご利用ください。

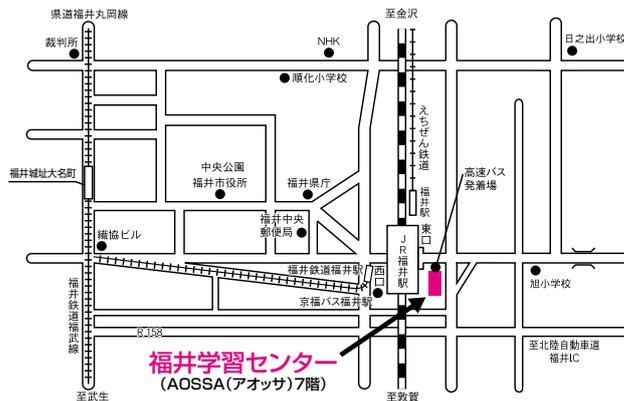


福井学習センター

☎0776-22-6361
FAX 0776-22-6431

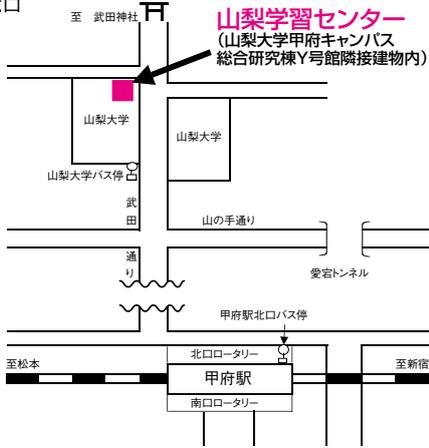
〒910-0858 福井市手寄1丁目4-1(AOSSA7階)

■JR福井駅東口から徒歩約1分 ■えちぜん鉄道福井駅から徒歩約1分
■福井鉄道福井駅から徒歩約3分 ■京福バス福井駅から徒歩約3分
●主な駐車場(有料)・AOSSA地下駐車場・福井駅東パーキング



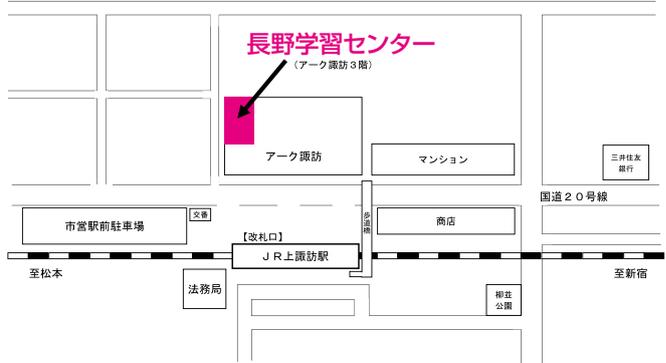
山梨学習センター ☎ 055-251-2238
FAX 055-251-2193
〒400-0016 甲府市武田4-4-37(山梨大学甲府キャンパス内)

- JR中央本線「甲府駅」北口から徒歩20分
- 甲府駅北口2番バス停から武田神社または積翠寺行バスで「山梨大学」下車(所要時間5分)



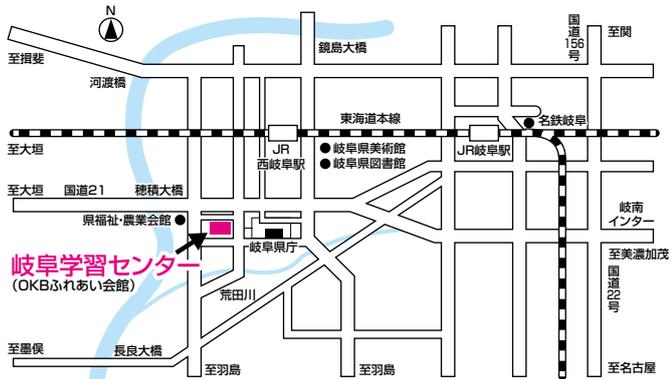
長野学習センター ☎ 0266-58-2332
FAX 0266-57-1135
〒392-0004 諏訪市諏訪1-6-1(アーク諏訪3階)

- JR中央本(東)線上諏訪駅下車徒歩3分



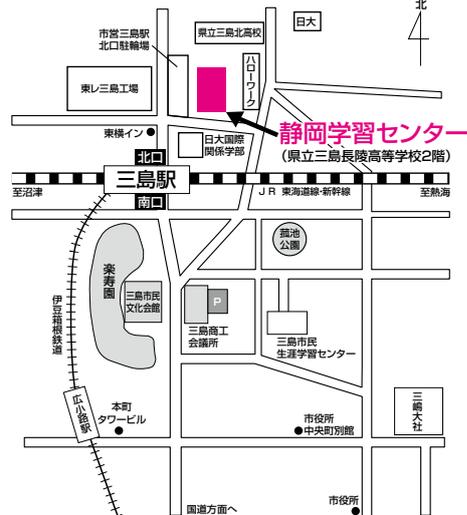
岐阜学習センター ☎ 058-273-9614
FAX 058-273-9526
〒500-8384 岐阜市葦田南5-14-53(OKBふれあい会館第2棟2階)

- JR岐阜駅北口バスターミナルから岐阜バス・加納島線「OKBふれあい会館」に乗り、終点下車
- JR西岐阜駅南口から岐阜バス・笠松県庁線「笠松駅」に乗り、「OKBふれあい会館」下車



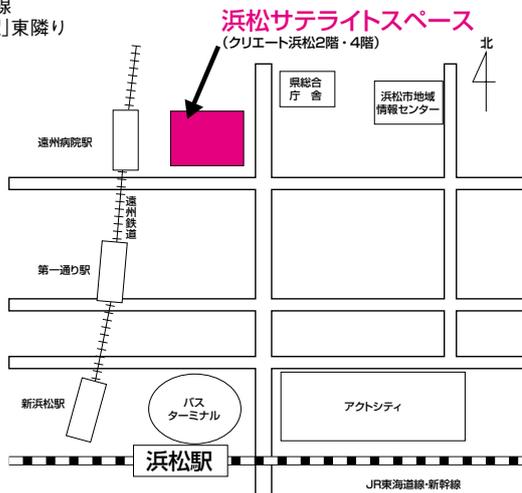
静岡学習センター ☎ 055-989-1253
FAX 055-989-1255
〒411-0033 三島市文教町1-3-93(静岡県立三島長陵高等学校2階)

- JR三島駅北口から約200m徒歩3分



浜松サテライトスペース ☎ 053-453-3303
FAX 053-453-3327
〒430-0916 浜松市中央区早馬町2-1(クリエート浜松2階・4階)

- JR浜松駅北口から徒歩10分
- 遠鉄西鹿島線「遠州病院駅」東隣り



愛知学習センター ☎ 052-589-8333
FAX 052-583-8611
〒451-0051 名古屋市中西区則武新町3-1-17(BIZrium名古屋5階)

- 地下鉄東山線「亀島駅」下車、②番出口徒歩6分
- 名古屋駅L4出入口徒歩6分



三重学習センター

☎ 059-233-1170
FAX 059-233-1179

〒514-0061 津市一身田上津部田1234(三重県総合文化センター内)

- 鉄道: 近鉄名古屋線津駅下車 JR紀勢本線津駅下車 伊勢鉄道津駅下車
- バス: 三重交通バス「津駅西口」で「総合文化センター」または「夢が丘団地」行きに乗車、「総合文化センター前」下車(所要時間約5分)
- 徒歩: 津駅西口から約25分
- 自家用車: 伊勢自動車道芸濃インターから約15分 伊勢自動車道津インターから約10分

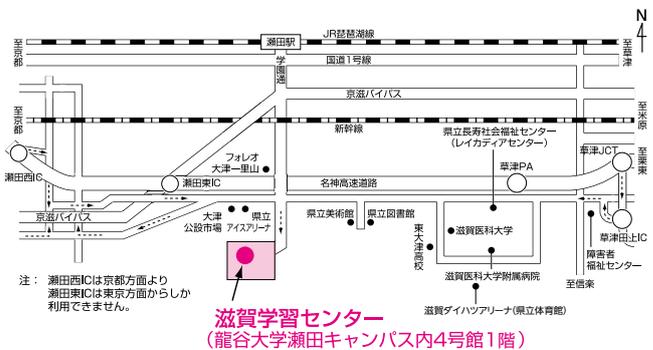


滋賀学習センター

☎ 077-545-0362
FAX 077-545-2096

〒520-2123 大津市瀬田大江町横谷1-5(龍谷大学瀬田キャンパス内)

- 鉄道: JR琵琶湖線「瀬田駅」下車 (JR京都駅から約20分)
- バス: 龍谷大学行、龍谷大学経由 公設市場行、龍谷大学経由 大学病院行 約8分
- 自家用車: 国道1号線「瀬田駅」から学園通を南行約3km(自家用車通学可)
: 高速道路利用 京都方面(名神高速道路)より「瀬田西IC」から約5分
東京方面(名神・新名神高速道路)より「草津田上IC」から約5分

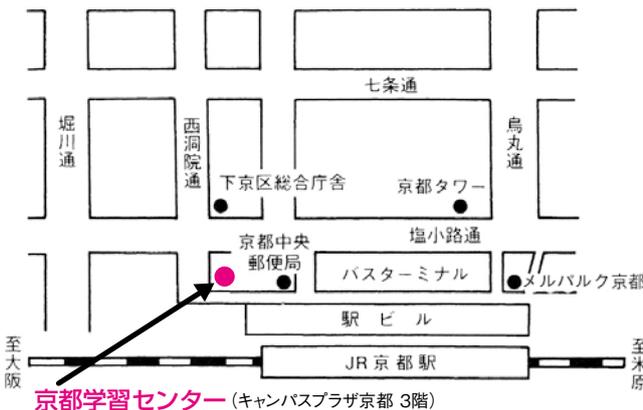


京都学習センター

☎ 075-371-3001
FAX 075-371-3033

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939(キャンパスプラザ京都3階)

- 近鉄・地下鉄・JR京都駅下車 徒歩5分

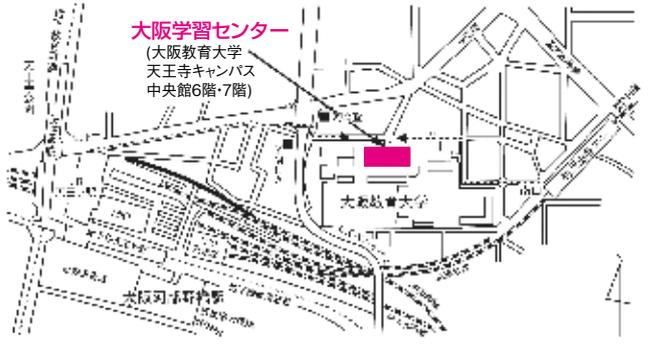


大阪学習センター

☎ 06-6773-6328
FAX 06-6773-6322

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88(大阪教育大学天王寺キャンパス内)

- JR環状線 寺田町駅下車 南口から西へ 徒歩約5分
- JR 天王寺駅下車 北口から東へ 徒歩約10分
- 地下鉄 天王寺駅下車 徒歩約10分
- 近鉄 大阪阿部野橋駅下車 徒歩約10分

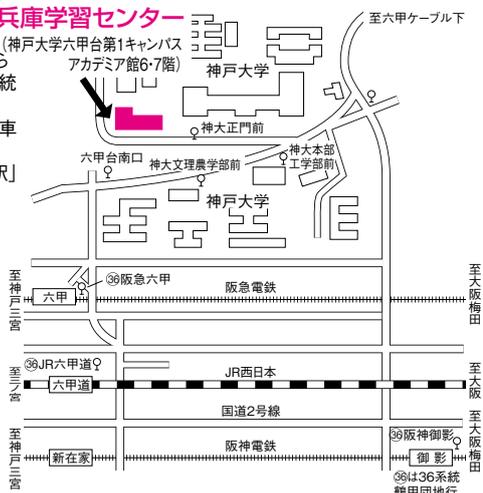


兵庫学習センター

☎ 078-805-0052
FAX 078-805-0067

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1(神戸大学六甲台キャンパス内)

- 阪神「御影駅」、**兵庫学習センター**
JR「六甲道駅」、(神戸大学六甲台第1キャンパス 阪急「六甲駅」から神戸市バス36系統 鶴甲団地行乗車「神大正門前」下車すぐ)
- 徒歩: 阪急「六甲駅」から約20分(上り坂)



姫路サテライトスペース

☎ 079-284-5788
FAX 079-284-5812

〒670-0012 姫路市本町68-290(イグレひめじ地下2階)

- JR姫路駅から徒歩約15分
- 山陽電鉄山陽姫路駅から徒歩約15分
- 神姫バスターミナルからバスで「姫路城大手門前」下車 徒歩南へ2分

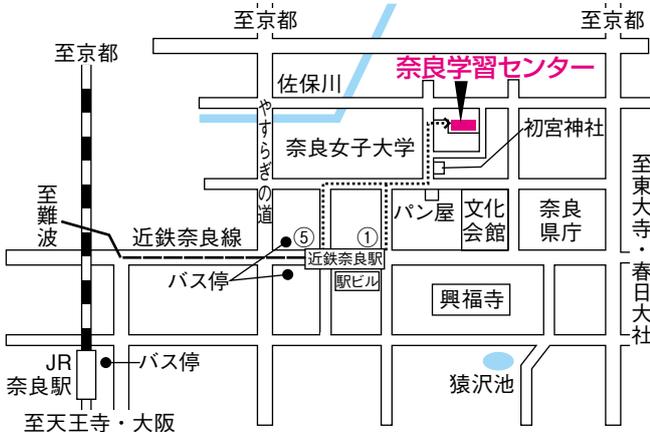


奈良学習センター

☎ 0742-20-7870
FAX 0742-20-7871

〒630-8589 奈良市北魚屋東町(奈良女子大学コラボレーションセンター3階)

- 近鉄奈良駅①・⑤番出口より北へ徒歩約10分
- JR奈良駅から市内循環バス 近鉄奈良駅下車北へ徒歩約10分



和歌山学習センター

☎ 073-431-0360
FAX 073-431-0311

〒641-0051 和歌山市西高松1-7-20(和歌山大学松下会館内)

- JR和歌山駅からバスで約20分「高松」バス停下車 徒歩約3分
- 南海和歌山市駅からバスで約20分「高松」バス停下車 徒歩約3分

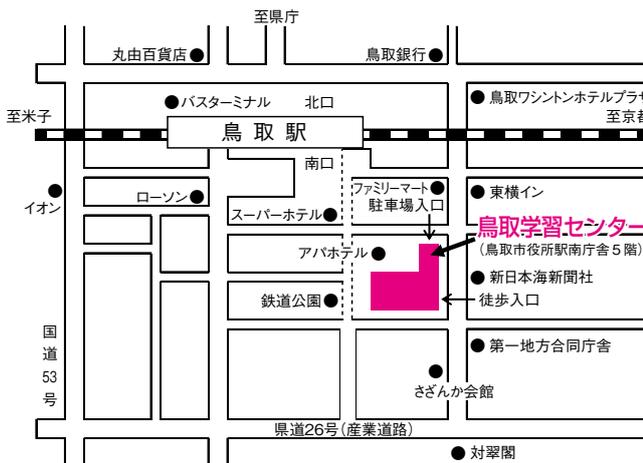


鳥取学習センター

☎ 0857-37-2351
FAX 0857-37-2352

〒680-0845 鳥取市富安2-138-4(鳥取市役所駅南庁舎5階)

- 鳥取駅南口から徒歩5分 ※1階フロアからは、新日本海新聞社側入り口のエレベーターをご利用ください。
- バスターミナルから徒歩10分

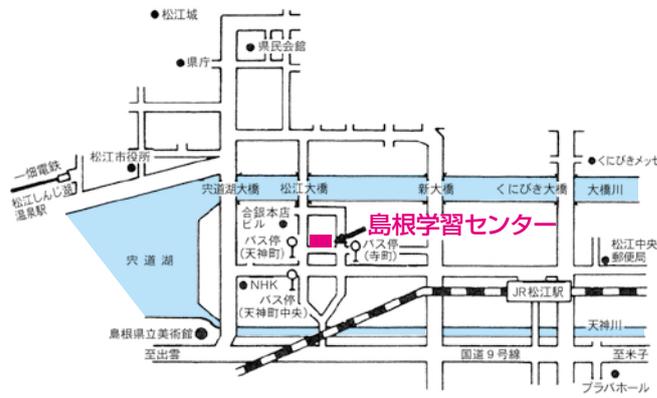


島根学習センター

☎ 0852-28-5500
FAX 0852-28-1800

〒690-0061 松江市白潟本町43(スティックビル4階)

- JR松江駅から ◇徒歩10分 ◇市営バスまたは一畑バス利用「天神町」下車徒歩1分「天神町中央」下車徒歩3分
- 一畑電鉄松江しんじ湖温泉駅から ◇市営バスまたは一畑バス利用「寺町」下車徒歩3分
- ※JR松江駅へは「寺町」からご乗車ください。

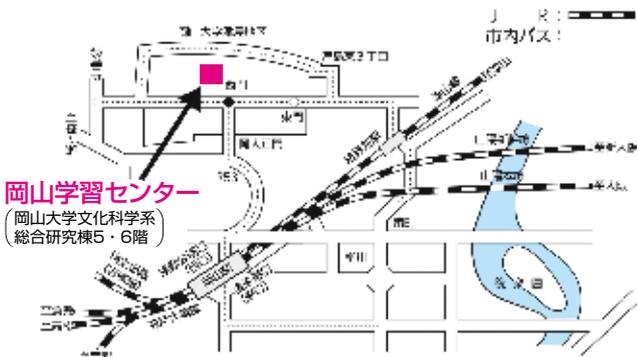


岡山学習センター

☎ 086-254-9240
FAX 086-254-9286

〒700-0082 岡山市北区津島中3-1-1(岡山大学津島キャンパス内)

- 岡電バス 岡山駅運動公園口(西口)発 22番乗り場 47番バス 理大線「岡大西門」下車 所要時間約15分
- 岡電バス 岡山駅後楽園口(東口)発 13番乗り場 17(67)番バス妙善寺線「岡大西門」下車 所要時間約30分
- JR津山線法界院駅下車 北西へ徒歩約15分



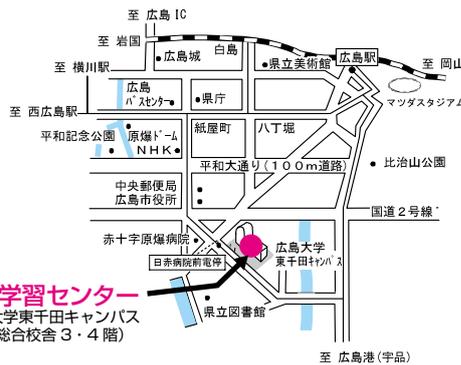
広島学習センター

☎ 082-247-4030
FAX 082-247-4461

〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89(広島大学東千田キャンパス内)

- JR広島駅前(南口)から
- 路面電車：広島電鉄「1広島港(宇品)」行(紙屋町東経路)で「日赤病院前」下車、宇品方面に徒歩3分(所要時間約30分)
- バス：広島バス「50アルパーク」行で「日赤前」下車、または、「21-2広島港(ベイシティ経由)」行きで「日赤病院西」下車、宇品方面に徒歩3～5分(所要時間約20～30分)
- JR西広島駅前から
- 路面電車：広島電鉄「3日赤病院前・広電本社前」行で「日赤病院前」下車、宇品方面に徒歩3分(所要時間約30分)
- JR横川駅前から
- 路面電車：広島電鉄「7広島港(宇品)」行で「日赤病院前」下車、宇品方面に徒歩3分(所要時間約25分)

広島学習センター
(広島大学東千田キャンパス
東千田総合校舎3・4階)

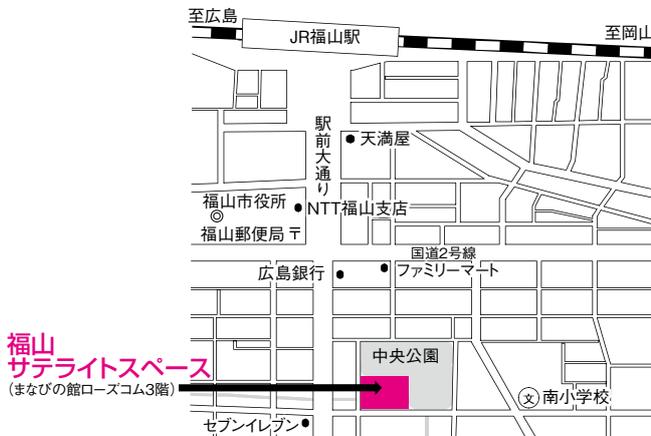


福山サテライトスペース

☎ 084-991-2011
FAX 084-991-2012

〒720-0812 福山市霞町1-10-1(まなびの館ロースコム3階)

■JR福山駅から南へ約700m(徒歩10分)

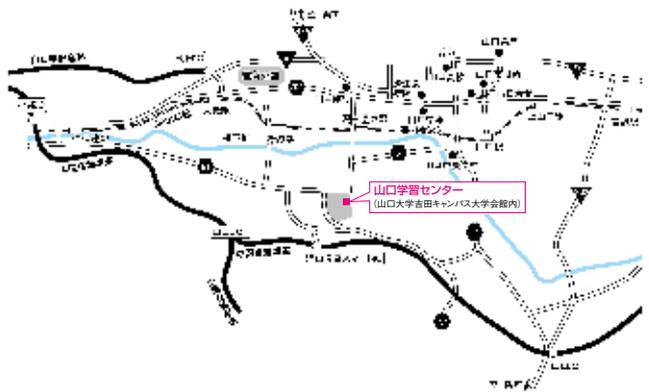


山口学習センター

☎ 083-928-2501
FAX 083-928-2503

〒753-0841 山口市吉田1677-1(山口大学吉田キャンパス 大学会館内)

- JR:湯田温泉駅下車 徒歩25分
- バス:湯田温泉駅入口バス停から防長バス(平川経由)で山口大学前バス停下車 徒歩3分
- 自家用車:中国道小郡IC下車 約15分
中国道山口IC下車 約12分
中国道湯田温泉スマートIC(ETC専用)下車 約5分

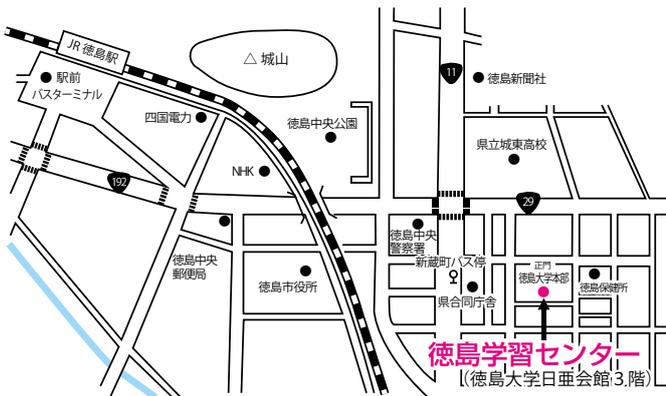


徳島学習センター

☎ 088-602-0151
FAX 088-602-0152

〒770-0855 徳島市新蔵町2-24(徳島大学新蔵キャンパス日亜会館3階)

- JR徳島駅下車、徒歩約15分
- JR徳島駅から徳島バス・徳島市営バス乗車、「新蔵町」下車、徒歩約2分
- JR徳島駅からタクシーで約5分

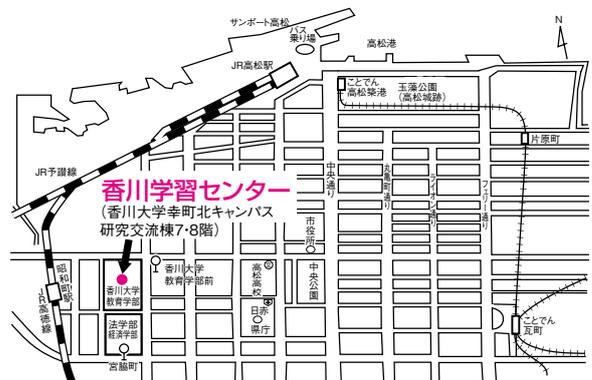


香川学習センター

☎ 087-837-9877
FAX 087-837-9890

〒760-0016 高松市幸町1-1(香川大学幸町北キャンパス内)

- JR:高松駅下車 約1.7km、昭和町駅下車 約500m
- 電車:ことうん瓦町駅下車 約1.3km
- バス:JR高松駅・ことうん瓦町駅からまちなかループバス(東廻り・西廻り)で「香川大学教育学部前」下車約150m
- タクシー:JR高松駅から約5分

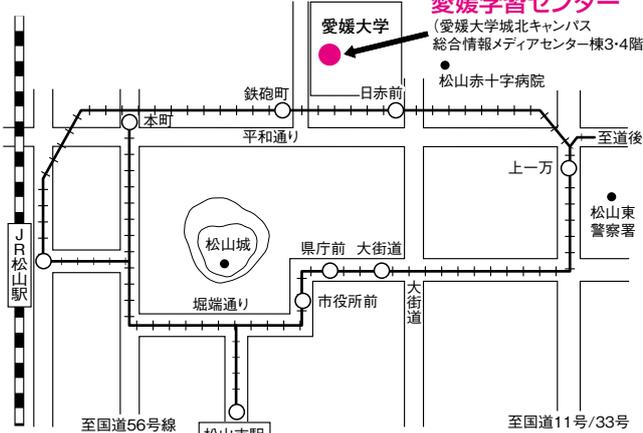


愛媛学習センター

☎ 089-923-8544
FAX 089-923-8479

〒790-0826 松山市文京町3(愛媛大学城北キャンパス内)

- JR松山駅から:市内電車(環状線①番)乗車16分
- 伊予鉄松山市駅から:市内電車(環状線②番)乗車18分
鉄砲町下車徒歩3分

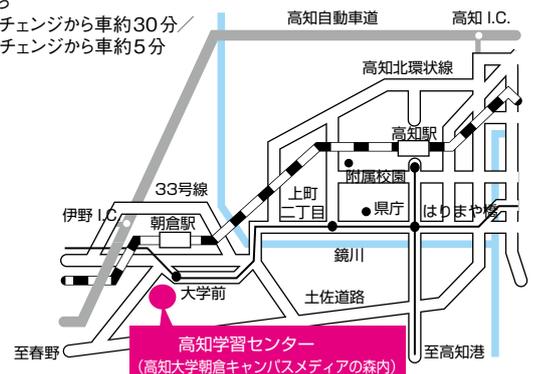


高知学習センター

☎ 088-843-4864
FAX 088-843-4813

〒780-8072 高知市曙町2-5-1(高知大学朝倉キャンパス内)

- JR高知駅から
バス:高知駅バスターミナルから乗車(約25分)、朝倉(高知大学前)下車、徒歩約5分
路面電車:高知駅前から乗車、はりまや橋で乗り換え(約40分)、朝倉(高知大学前)下車、徒歩約3分
J R:高知駅から下り線乗車(約15分)、朝倉駅下車、徒歩約5分
- 高速道路から
高知インターチェンジから車約30分/
伊野インターチェンジから車約5分



福岡学習センター

☎092-585-3033
FAX 092-585-3039

〒816-0811 春日市春日公園6-1(九州大学筑紫キャンパス内E棟4、5階)

- JR大野城駅西口から徒歩7分(JR博多駅から快速9分・普通20分)
- 西鉄白木原駅から徒歩20分
- 大野城門からは徒歩のみ通行可



北九州サテライトスペース

☎093-645-3201
FAX 093-645-3208

〒806-0021 北九州市八幡西区黒崎3-15-3(コムシティ3階)

- JR黒崎駅から徒歩5分
- 西鉄バス：黒崎バスセンターから徒歩3分

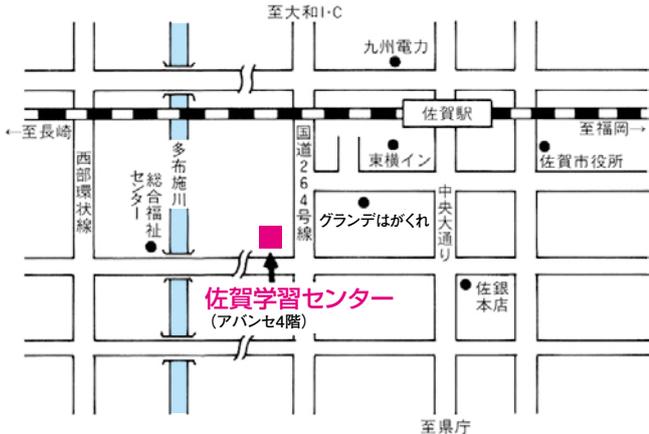


佐賀学習センター

☎0952-22-3308
FAX 0952-22-3398

〒840-0815 佐賀市天神3-2-11(アバンセ4階)

- JR佐賀駅・佐賀駅バスセンターから徒歩10分
- 佐賀市営バス：「どんどんの森前」バス停下車 徒歩2分
「どんどんの森東」バス停下車 徒歩2分

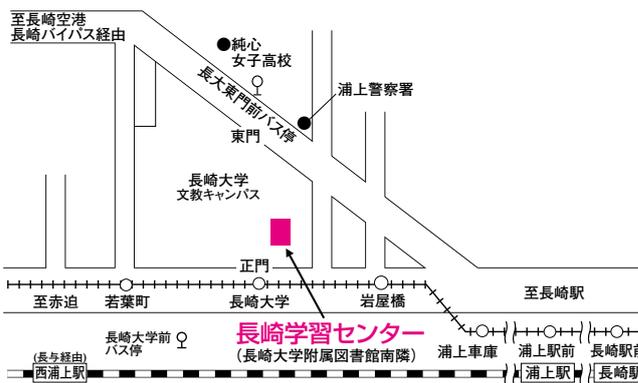


長崎学習センター

☎095-813-1317
FAX 095-813-1325

〒852-8521 長崎市文教町1-14(長崎大学文教キャンパス内)

- JR長崎駅から約20分・浦上駅から約10分(路面電車またはバス)
- 路面電車：①③番系統「赤迫」行、「長崎大学」下車、徒歩約3分
- 長崎バス：「滑石」「時津」「長与」方面行き「長崎大学前」下車、徒歩約3分

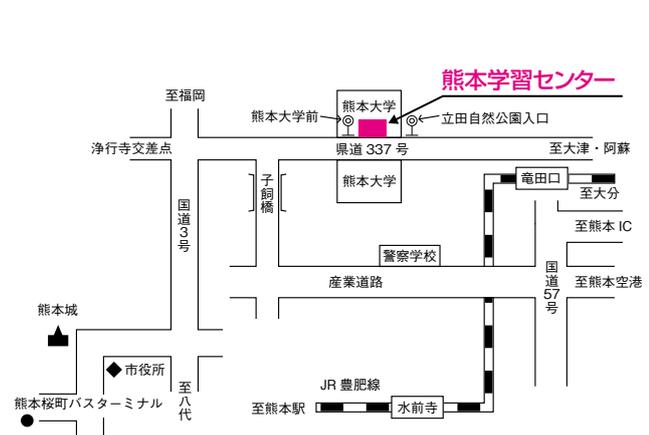


熊本学習センター

☎096-341-0860
FAX 096-341-0870

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-40-1(熊本大学附属図書館南棟2・3階)

- JR熊本駅：産交バス、熊本電鉄バス「熊本大学前」下車
- 熊本桜町バスターミナル：産交バス、熊本電鉄バス「熊本大学前」下車



大分学習センター

☎0977-67-1191
FAX 0977-67-1193

〒874-8501 別府市北石垣82(別府大学39号館2階)

- JR利用の場合(最寄駅は別府大学駅) JR日豊線別府大学駅より徒歩10分
- バス利用の場合(JR日豊線別府駅から：所要時間約20分)



宮崎学習センター

☎ 0982-53-1893
FAX 0982-53-1898

〒883-8510 日向市本町11-11

- JR日向市駅下車 徒歩7分
- 宮崎交通バス延岡線、宇納間線で商工会館通り下車徒歩3分



鹿児島学習センター

☎ 099-239-3811
FAX 099-239-3841

〒892-0816 鹿児島市山下町14-50(カクイクス交流センター内)

- JR鹿児島駅から徒歩10分
- 鹿児島中央駅から電車・バス約15分
- 電車・バス
- 市役所前下車徒歩5分、水族館口下車徒歩4分

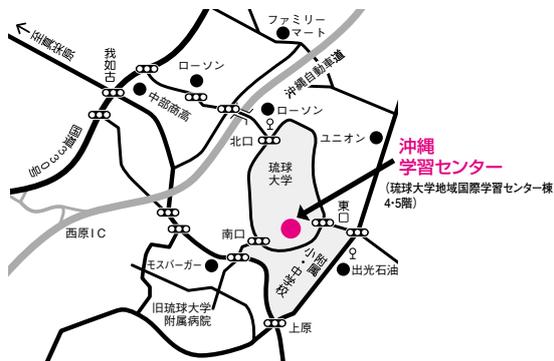


沖縄学習センター

☎ 098-895-5952
FAX 098-895-5953

〒903-0129 中頭郡西原町字千原1(琉球大学内)

- 路線バス
- 97番琉大線(那覇バス) 那覇バスターミナル→「牧志」→「儀保」→「旧琉大附属病院前」→「琉大東口」(下車徒歩約10分)
- 98番琉大線(琉球バス) 那覇バスターミナル→「牧志」→「沖縄国際大学前」→「琉大北口駐車場」(下車徒歩約15分)



スマホ決済もご利用いただけます

本学の入学検定料の「払込取扱票」は、下記のスマホ決済アプリに対応しており、アプリご利用条件に該当される場合、「払込取扱票」のバーコードをスマートフォン等で読み取ることにより、スマートフォン等からの決済が可能です。

スマホ決済で入学検定料をお支払いいただいた場合は、領収印のない「領収証書（ご依頼人控）」の「依頼日」欄に決済日を記入し、領収証書貼付用紙③に貼付の上、領収証書貼付用紙③の記入欄に使用したスマホ決済の名称（PayB）を記載して郵送してください。

「PayB（ペイビー）」アプリ

ご利用条件概要

- 対応する金融機関の銀行口座あり
- 対応するOSのスマートフォン等の所持あり

詳細は下記Webページをご確認ください。
<https://payb.jp>

問合せ先：
 ビリングシステム株式会社
 ☎ 03-6457-9459

【利用方法概要】

- ①アプリをダウンロード  
- ▼
- ②氏名、生年月日、お支払い方法等を事前登録
- ▼
- ③バーコードを撮影 
- ▼
- ④任意の暗証番号を入力
- ▼
- ⑤払込完了
 - ・アプリ上の「取引履歴」から確認いただけます。
 - ・「支払い完了メール」が送信されます。
- ▼

「モバイルレジ」アプリ

ご利用条件概要

- 対応する金融機関のネットバンキング契約あり
- 対応するOSのスマートフォン等の所持あり

詳細は下記Webページをご確認ください。
<https://solution.cafis.jp/bc-pay/pc/index.html>

問合せ先：
 株式会社NTTデータ
 問合せ窓口
<https://solution.cafis.jp/bc-pay/pc/question.php>

【利用方法概要】

- ①アプリをダウンロード 
- ▼
- ②バーコードを撮影 
- ▼
- ③ご利用の金融機関を選択し、お使いのネットバンキングにログイン
- ▼
- ④払込手続
- ▼
- ⑤払込完了
 - ・各ネットバンキングの「取引履歴」から確認いただけます。
- ▼

領収印のない「領収証書（ご依頼人控）」を領収証書貼付用紙③に貼付して郵送

出願全般に関するお問い合わせ	
放送大学学生サポートセンター室 担当：学務部教務課 (月～金) 大学院企画・入試係	月～金：9時15分から17時30分 土：9時15分から13時、14時から17時30分 (日曜・祝日を除く)
<p>電話：043-276-5111 (総合受付) *音声ガイダンスにしたがって番号を選択してください。 放送大学への「入学」および「再入学」をお考えの方は☑を押してください。 必ず市外局番から、お間違いのないようおかけください。 メール：in-nyushi@ouj.ac.jp ※メールのご返信には数日を要する場合がございます。 正確にご案内するために、お電話でお問合せいただいた場合でも、メールでのご連絡をお願いする場合もございます。</p>	

市販封筒使用時の出願証明書類の送付先
〒261-8686 千葉県千葉市美浜区美浜郵便局私書箱5号 放送大学 学務部教務課宛

※出願以外の内容に関するお問い合わせ

博士後期課程の履修カリキュラム、特定研究(博士論文の指導)等に関する内容は、教務課(kyomuka@ouj.ac.jp)へお問い合わせください。

1 概要

2 出願にあたって

3 募集内容

4 出願資格

5 入学者選考方法

6 出願書類

7 入学

8 本部・学習センター等の案内

9 本部・お問い合わせ先



放送大学本部

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11

☎ 043-276-5111 (総合受付)

www.ouj.ac.jp

放送大学大学院
文化科学研究科
文化科学専攻
博士後期課程

授業科目概要

2026年度
[博士全科生]

本冊子に記載している内容は、作成時現在（2025年4月）における予定であり、今後、変更になることがあります。

履修登録の際、最終合格者に配布される「授業科目案内」で詳細を必ずご確認ください。

目 次

○ 生活健康科学プログラム	1
○ 人間科学プログラム	4
○ 社会経営科学プログラム	8
○ 人文学プログラム	12
○ 情報学プログラム	16
○ 自然科学プログラム	22

生活健康科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
生活健康科学特論 所属プログラム教員	2	豊かな生活、質の高い生活というときには、物質的なものを指すだけではない。むしろ、精神的、身体的、社会的、そしてスピリチュアルな豊かさや質の高さを求める必要がある。そして、「人的環境」や「物的環境」、「保健医療環境」、「社会福祉環境」そして「生活者個人の状態」といったものを対象に、多様な角度からアプローチすることによって、はじめて自己の生活の質の向上および他者の生活の質の向上につながる方策や課題が見えてくる。本科目では、多様さを習得し俯瞰力を身につけることが狙いであるため、オムニバス形式で進め、上記のような研究対象について、主に基本文献講読と議論を通じて学ぶ。それらを通じて、各自の研究課題が特定の専門領域であったとしても、考える際の視野を広くもてるようにすること、アプローチの多様さを意識できるようにすること、そして学際的に検討する力を持てるようにすること、以上を通じて主に生活健康科学での研究の質を高める素地を培うことを本科目の目標とする。
生活環境情報学・ 家族関係学研究法 下夷 美幸 教授 川原 靖弘 教授	1	家族は社会変動のなかで大きく変化しており、従来の支配的な家族モデルが通用しない時代となっている。本科目では、「近代家族」概念、および家族制度の日本の特徴について理解し、家族を相対化して捉える視点を習得したうえで、受講者が関心を持つ具体的なテーマに即したディスカッションを行う。また、生活環境に関わる事象について、時空間変化に着目し視覚的に表現し新たな意味を持つ情報が得る手法の一つであるGIS（地理情報システム）に焦点を当て、受講者が関心を持つテーマに関する実践とディスカッションを行う。
食品科学・リスク学 研究法 朝倉 富子 教授 奈良 由美子 教授	1	人は、食物から栄養素を摂取することで生命を維持している。健康の維持増進には適切な食事、運動、人とのコミュニケーションが重要であるが、中でも「食」は日々欠くことのできないもので、QOLに占める割合が大きい。また、生きて生活することはそれ自体がリスクを伴うものである。授業では生活および社会の諸事象をリスクという切り口でとらえることの意義と手法についても学ぶ。そのうえで、受講者が関心をもつ具体的なテーマに照らしたディスカッションを行う。
医科学・公衆衛生学 研究法 糸川 昌成 教授 関根 紀子 教授 田城 孝雄 特任教授	1	精神医学とその応用分野・臨床死生学・地域医療・地域包括ケアシステム・医療政策学・運動生理学およびスポーツ科学等、医療・健康科学に関する研究の実践法について、オムニバス形式で複数テーマに関する文献等の講読と総合ディスカッション形式で修得し、自律した研究者の素地として必要な独創的な国際水準の実証研究遂行能力を涵養する。
看護学・健康社会学 研究法 井出 訓 教授 戸ヶ里 泰典 教授 山内 豊明 教授	1	医療看護実践場面におけるアセスメント方法の設計・インプリメンテーション・普及に関する評価研究方法論、高齢者の健康維持・増進とリハビリテーションおよび安らかな死への準備を含む支援開発方法論、データ収集法や解析法を含む社会調査方法論および疫学方法論等について、オムニバス形式で複数テーマに関する文献等の講読と総合ディスカッション形式で修得し、自律した研究者の素地として必要な、独創的な国際水準の実証研究遂行能力を涵養する。
社会福祉学研究法A 山田 知子 特任教授	1	高齢者や女性等の貧困・生活問題をテーマに生活支援などの実践への関与と政策分析および生活問題分析に基づいた実証的研究の方法を学び、研究論文の作成のための基礎的能力を習得する。また、研究成果をいかに政策と実践の場にかえしていくか、その方法についても学ぶ。
社会福祉学研究法B 川島 聡 教授	1	障害者等の日常生活・社会生活に関わる様々なテーマを扱う。その際、特に障害学、障害法、国際人権法などの学問領域を個別的・総合的に取り上げて、関連する国内外の文献の購読とディスカッションを通じて、研究論文の作成のための基礎的能力を身につけることを可能にさせる。

生活健康科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
生活健康科学特定研究 (研究指導)	12	生活健康科学に関する特定の研究課題について、主体的な研究活動を行い、科学的根拠に基づいた独創性・実践性の高い論文作成を教授する。
下夷 美幸 教授		生活領域の家族に関わる研究について、論文指導を行う。論文においては、先行研究の十分なレビューの上に設定された研究課題に対して、適切な資料・データ等を用いて分析を行い、その結果に基づく考察から、先行研究では導出されていない新たな知見を提示することが求められる。論理性、独創性を備えた論文の完成を目指した指導を行う。
川原 靖弘 教授		生活情報、健康科学領域において、研究指導を行う。初年度は研究を遂行するための基礎技能の習得に重点を置き、研究実施とエビデンスに基づいた論文執筆に繋げる。研究を通して得る新しい知見の有用性、適用妥当性についても重要視した論文作成指導を目指す。
朝倉 富子 教授		生活領域のうち、食生活に関わる研究テーマについて指導を行う。高齢社会を迎えた日本において、健康寿命の延伸は、重要な課題である。学位論文作成にあたっては、研究の意義を考えつつ明確な目標を設定する。論理的な考え方を身につけ、課題解決のための具体的な手法について、議論をしながら論文作成に取り組む。
奈良 由美子 教授		生活領域について、各自の関心および研究段階に応じて論文指導を行う。研究テーマと方法の明確化、実査、考察を含めた一連の研究過程の習得を支援するとともに、研究への自主的な取り組みを促す。体系的・独創性・論理性・客観性を充足した論文の完成をめざす。
関根 紀子 教授		健康領域のスポーツ・運動科学に関する研究指導を行う。先行研究を十分に検証し、運動生理学やスポーツバイオメカニクス、生体信号処理、筋および神経活動に関する生理・生化学的な内容について、独創性のある論文の完成を目指した指導を行う。
田城 孝雄 特任教授		健康領域について、博士課程の大学院生として、一人前の研究者となるべく研究を行う。医療提供体制、社会保障制度の中の医療の在り方、保健や介護・福祉、あるいは自治体やコミュニティにおける医療と、他との連携の在り方について、課題を見つけ、その解決方法について、適切な研究方法にてデータを収集し考察する。結果は、然るべき学術誌に投稿発表することを基本とする。
井出 訓 教授		健康領域・看護領域について、国内外の著書、文献を幅広くレビューすることから研究課題を明確にし、適切な方法・デザインを選択、倫理的な配慮、科学的視点に基づいた独創的な研究論文の作成を目指す。研究成果は、高齢者の健康維持・増進、疾病の回復、生活支援、および安らかな死への準備など、高齢者支援の開発・向上に資する内容となることを意識した研究とする。
戸ヶ里 泰典 教授		健康領域・看護領域について、当該領域における問題点に対し多角的、総合的な視点で接近し、短期的ならびに長期的な視点でのその解決策を得るべく、量的社会調査方法論、疫学調査方法論を駆使したデータ収集と解析を行い、独創的な国際水準の実証研究論文の完成を目指す。
山内 豊明 教授		医療看護実践場面における状況把握と臨床における推論、すなわちアセスメントを中心に研究指導を進める。特にフィジカルアセスメントに関する方法論の構築、検証及びその普及方法の開発とそれらの成果を広く還元できるような教育研修体制の構築や整備に関する研究についての論文作成指導を目指す。

生活健康科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
山田 知子 特任教授	12	<p>貧困・生活問題、高齢者および女性の生活支援、介護などをテーマに理論と実践をどう統合させ、政策構築をめざすのか、その方法について検討する。実証的研究の方法を学び、研究論文の作成のための基礎的能力を習得する。広い視野からテーマを絞り込み、社会的インパクトのある論文に仕上げていくセンスと具体的手法を磨く。</p>
川島 聡 教授		<p>障害者等の日常生活・社会生活に関わる様々な研究課題について論文指導を行う。関連する国内外の先行研究を適切にレビューした上で独創的な論文を作成する、ということに可能な論文指導を目指す。論文指導の際には、障害学、障害法、国際人権法などの学問領域を意識し、理論と実践の両方を念頭に置く。</p>
糸川 昌成 教授		<p>健康領域について国内外の先行研究を十分に検証し独創性をもった課題を設定して研究を行う。メンタルヘルスの諸課題を解明するテーマとデザインを決めて、新規性のある科学的視点をもった博士論文を完成するよう指導する。</p>

人間科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
人間科学特論 所属プログラム教員	2	学生が研究の視座や方法の確立を目指し、自らの研究課題に関わる領域および隣接領域の課題について幅広い観点から取り組む基礎的な講座である。特に、人間科学プログラムを構成する教育学、心理学、臨床心理学の全領域に属する複数の教員が担当する講義、演習を通じて、現実的で実践的な人間科学研究に必須の基礎的諸技能の理解と修得を目指す。本特論の教育目標は、人間科学関連諸分野の研究基礎力の涵養ということになる。
高等教育研究法 苑 復傑 教授	1	世界各国の大学は、それぞれ独自の歴史や論理をもっているが、直面する問題には多くの類似点がある。この授業の前半では、高等教育研究における重要な論点、研究動向と研究方法等を、関連文献の購読、およびそれについての解説を通じて学ぶ。後半では、受講者が博士論文で取り組もうとする研究テーマ・課題に関連する先行研究、重要文献、研究動向、研究方法を検討し、各自の問題意識を深化させる。
高等教育論研究法 橋本 敏市 教授	1	「高等教育」領域における諸問題はきわめて多種多様であり、またその分析アプローチも多岐にわたる。この授業では、国内外の高等教育における様々な諸側面を、とくに社会学的なアプローチから分析する際の方法論をレビューし、その問題点と課題を考察する。授業の前半では国内外の基本的な理論・分析アプローチ（特に制度論・組織論・政策過程論）を学修し、後半では受講生のテーマ・関心に即しながら、高等教育領域の特定のテーマ・課題を対象とした具体的な方法論の適用について学ぶ。
認知心理学研究法 高橋 秀明 教授	1	認知心理学の基礎的理論、研究方法、及び最新の研究動向について、文献講読やレポート発表を通して学ぶ。さらに、認知心理学の応用的な側面という意味で、受講生の各自の研究テーマと認知心理学との関わりについて、そしてデータ収集計画について、発表と全員での討議を行う。以上のプロセスを通して、受講生が自らの研究テーマを絞り込むことができるようにする。
発達心理学研究法 向田 久美子 教授	1	発達心理学における基礎的理論や最新の研究動向、種々の研究方法について、文献講読やレポート発表、討論を通して学ぶ。そのプロセスを通して、受講者の研究テーマの絞り込みと研究方法の精緻化を図り、博士論文執筆のための基盤作りをする。
社会心理学研究法 森 津太子 教授	1	社会心理学の基礎的な理論、主な研究手法、最新の研究動向について文献講読を通じて学ぶとともに、各自の研究テーマに沿ってレポートを作成・発表し、討議を行う。このようなプロセスを通じて、現代社会心理学への認識を深めるとともに、自らの研究を適切に計画、実施、分析する能力を涵養していく。
臨床心理学研究法 中島 正雄 教授	1	臨床心理学における基礎的理論や最新の研究動向、種々の研究方法について、文献講読やレポート発表、討論を通して学ぶ。そのプロセスを通して、受講者の研究テーマを絞り込み、ふさわしい研究方法を考え、博士論文執筆のための基盤作りをする。
深層心理学研究法 橋本 朋広 教授	1	深層心理学における基礎的な理論、最新の研究動向、種々の研究方法について、文献講読、レポート発表、討論を通して学ぶ。そのプロセスを通して、受講者の研究テーマを絞り込み、テーマにふさわしい研究方法を考え、博士論文執筆のための基盤を作る。

人間科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
教育臨床心理学研究法 波田野 茂幸 教授	1	この授業では、教育領域の心理臨床に関する論文作成に必要な資料収集、文献購読、討議を行うことで各自の研究テーマが深化することを目指す。さらに、そのプロセスを通して、研究の意義、研究方法を精緻化し、博士論文作成に必要な基盤づくりを行う。
学校臨床学研究法 丸山 広人 教授	1	学校での心理臨床活動を行うさいの主要な立場を理解し、その基礎的な理論と研究方法、最新の研究動向に関する文献を購読する。レポート発表を行い討議することによって、自らの研究テーマを深め、テーマに応じた研究方法を習得し、論文作成の基礎を作る。
福祉心理学研究法 村松 健司 教授	1	主に福祉領域における心理臨床学的支援や包括的支援などのテーマについて、文献購読、レポート発表と討論から基礎的理論と研究の動向や研究方法に関する理解を深め、自らの研究計画の絞り込みと博士論文執筆の基礎を習得する。
カリキュラム研究法 小林 祐紀 准教授	1	カリキュラムを含む教育実践研究の基本について、論文等を参照しながら系譜や方法論を中心に検討する。カリキュラムを含む教育実践研究に関する実証的な研究法を学び、学位論文の作成に役立てることを目指す。
教育行財政学研究法 櫻井 直輝 准教授	1	本科目の前半では、教育行財政学の基礎概念と基本課題、研究方法や論文の構成、書き方などについて、文献講読を通じて理解することを目指す。後半では各自の研究テーマに基づいた先行研究のレビューや論文構想について発表、検討する機会を設け、博士論文執筆に向けた見通しを立てられるよう準備を進める。
芸術療法学研究法 佐藤 仁美 准教授	1	心理臨床（主として表現療法・芸術療法等）に関する原著論文等の講読・討議を中心とした演習を行う。古典的文献・最新の研究動向等の文献講読や自らの事例研究・レポート発表、討論を通して学ぶ。そのプロセスを通して、受講者の研究テーマの絞り込みと研究方法の精緻化を図り、博士論文執筆のための基盤作りをする。
健康・医療心理学研究法 高梨 利恵子 准教授	1	心身の健康や、医療領域における臨床心理学についての基礎的な理論や研究動向について文献で学び、レポート執筆・発表や討論を通して研究テーマを絞り込む。適切な研究計画を立て、博士論文執筆の基盤を築く。

人間科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
人間科学特定研究 (研究指導)	12	人間科学に関係して、受講生が博士論文で取り組む特定の研究テーマ・課題について、受講生に必要な文献講読と研究計画に基づく指導等を実施し、主体的に創造性・独創性の高い論文の作成に到達することを目標とする。
苑 復傑 教授		高等教育の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸問題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
橋本 鉦市 教授		高等教育の領域（特にわが国）について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸問題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
高橋 秀明 教授		認知心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
向田 久美子 教授		発達心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
森 津太子 教授		社会心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
中島 正雄 教授		臨床心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
橋本 朋広 教授		臨床心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
丸山 広人 教授		臨床心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
村松 健司 教授		臨床心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
小林 祐紀 准教授		カリキュラムを含む教育実践研究の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
櫻井 直輝 准教授		教育行財政学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。

人間科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
高梨 利恵子 准教授	12	健康・医療心理学の領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものとそれをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。

社会経営科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
社会経営科学特論 所属プログラム教員	2	「社会経営科学特論」は、学生が自らの研究方法の確立を目指して、自分の研究課題に関わる隣接領域の課題について取り組む基礎的な講座である。特に、複数領域の教員との間で、幅広く隣接領域も含むような、現実的で実践的な社会研究の横断的テーマを決め、そのテーマにしたがって研究プロジェクト型の基礎研究を行う。学生は、自立的に研究を行う準備として、テーマをめぐっての基本文献を収集し講読したり議論を重ねたりして、研究動向論文を作成する方法を身につける。
民事法学研究法 李 鳴 教授	1	民事法学は、私法学基礎理論、民法、商法、民事訴訟法、国際私法等を研究対象とする。本授業では、受講生のそれぞれの研究テーマに関連する民事法学の基本的研究方法を体系的に指導する。 具体的には理論と実務との融合を図る視点に立って、次の内容の授業を実施する。 ①問題所在の発見、②文献収集とレビュー、③立法背景・立法者の意思を含む立法趣旨の探求と法令解釈、④先行研究における学説の整理と論証分析、⑤判例研究、⑥外国立法例との比較、⑦批判的・論理的思考と議論、⑧実務との関係、⑨残された問題と展望等。 授業は一部講義形式で行うが、原則として演習形式によるものとし、受講生が民事法学に関する文献・資料を講読のうえ、それに基づいた討論やレポートの発表をする。
政治思想史・国際政治思想史研究法 川出 良枝 教授	1	思想の歴史をふまえた公共政策研究についての基礎的な方法を学ぶ。欧米や日本の一国内の政治思想、あるいは国家間関係をめぐる政治思想に関連する原典（翻訳を用いることもある）あるいは古典的な研究書を丹念に講読し、正確な理解のもとに、そこから問題をすくい上げるといったアプローチをとる。講読するテキストは、受講生の関心を考慮しつつ決定する。
公共政策 (政治学・国際政治学) 研究法 白鳥 潤一郎 准教授	1	政治学及び国際関係論研究における基礎的な方法について、先行研究の読解を通じて学んでいく。受講者の関心をふまえて教員が指定したテキスト（学術書1～2冊程度ないし、学術論文8本程度）を読んで議論することを授業の中心に据える。その際、事前に書評（もしくは論文評）の提出を求める。
公共政策 (政治理論) 研究法 山岡 龍一 教授	1	公共政策研究における基礎的な方法について、テキスト読解を通じて研究指導を行う。一般的には社会科学の、特殊的には規範的政治理論の研究における基本的方法と理論の習得を目指す。公共的な問題の研究を、専門的な学問性と社会的意義の、両方の妥当性がある方法で遂行することの意味を探究する。取り上げるテキストの選択については、受講する学生との相談を考慮する。
経済思想史研究法 桑田 学 准教授	1	本講義では、現代の環境・社会・経済上の諸問題を念頭に置きつつ、これらにつき思想史・歴史的な探求を試みる。受講者の関心も踏まえつつ、教員が定めたテキスト（学術書および学術論文）の読解と評価を通じて、経済思想や環境思想研究に必要な基礎的な方法と専門的知識の習得を目指す。授業は演習形式を基本とし、受講者には授業ごとに事前のレジュメの提出を求める。
社会経済学研究法 松原 隆一郎 特任教授	1	社会経済学とは、市場と「人間関係資本」との関係に焦点を当て、「文化資本」「自然資本」「金融資本」とのかかわりを考察する経済学である。本講義では、それぞれの資本概念にかかわる基礎文献を取り上げ、研究方法の指導を行う。授業は一部講義形式で行うが、一般には演習方式によるものとし、学生と教員がテキスト・文献等の講読、グループ討議を通じて、博士論文執筆の方法、論理展開、統計資料の分析などの習熟を目指す。

社会経営科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
社会学研究法 北川 由紀彦 教授	1	この授業では、社会調査（特に質的な調査）によって得られたデータを分析し博士論文へとまとめ上げていくうえでの基本的な考え方、まとめ方、留意点、課題等について、社会学の都市エスノグラフィーを中心とした各種の調査研究報告書の読解を通じて学んでいく。
都市研究法 玉野 和志 教授	1	この授業では、都市研究についての基本的な知識や議論について、博士論文をまとめていく上での留意点、課題、方法、検討の進め方などを身につけるために、それらの基礎となる文献をじっくりと講読し、理解を深めることを通じて学修していく。
地域産業学研究法 古橋 元 教授	1	アジアや主要農産物生産・消費国等の地域における食料、農業・農村や地域産業等について研究論文指導を行う。これらの地域における食料および農業分野の研究のための基盤を構築し、必要な方法論について習得する。またそれらに基づいた討論や発表をするといった研究活動を中心とした指導を行い、食料および農業分野における地域研究の基本的方法を学生が習得する。さらに、これらの地域の農業・農村、食料や地域産業等における経済・社会活動に関する理論的背景及び実証的研究の新しい展開を模索する。
企業会計研究法 齋藤 正章 准教授	1	通常、企業会計というと「会計制度」に関する研究が一般的であるが、本講義では経営をコントロールするのに適した会計とは何かを探求することを目的とする。企業は様々な利害関係者との複雑な契約関係から成り立っていると考えられるが、外部の利害関係者と会計のあり方、内部の利害関係者と会計のあり方をそれぞれ議論・検討する。最後に外部報告会計と内部報告会計との融合と会計による経営のコントロールについて総括する。
人的資源管理研究法 原田 順子 教授	1	この講義では、人的資源管理分野の研究のために必要な知識を学習する。各自の研究関心とその周辺に注意を払いながら、先行する学問的蓄積を検討する。また、研究方法に関する知識を深めるとともに博士論文における留意点、まとめ方、形式について学習する。原則として、毎回の授業は演習形式で受講者の輪番による報告と討議を行う。
オペレーションズ・マネジメント研究法 松井 美樹 特任教授	1	オペレーションズ・マネジメントおよびサプライチェーン・マネジメント分野の研究のための基盤を構築し、必要な方法論について習得する。 ①各自の研究テーマ・課題に基づいてオペレーションズ・マネジメントおよびサプライチェーン・マネジメント分野の主要な既存文献をレビューする。 ②研究課題の意義を明確化し、分析に必要な研究手法の基礎力を育成する。 ③各自の研究進捗状況を把握した上で、ボトルネックを取り除くための方策を検討する。
建築設計研究法 堀部 安嗣 教授	1	建築設計研究法では、教員自身の設計事例や他の建築物の事例を観察・研究する。その研究から自分の生活や建築をとりまく様々な環境へと大きく視野を広げることの重要性を学び、「人や環境のための建築とは何か」を探る。受講生の取り組む研究テーマに沿って関連事例の調査や設計法の実践、他分野とのブリッジングを図る。演習や討議を行い、建築設計におけるポイントや仕組みを指導する。

社会経営科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
社会経営科学特定研究 (研究指導)	12	社会経営科学領域における「特定研究」では、学生が各自の研究課題について自律的に研究を行い、社会研究という学問領域に対して意義があり、かつ独創性のある論文を作成するよう指導する。さらに、学生が信頼性のある、完成度の高い博士論文を書くために、個別の論文指導に加えて、他領域に跨がるテーマについては、教員のチームを組織し論文作成をサポートする。
李 鳴 教授		商法を中心とする民事法学に関する研究テーマ（例えば、保険法、会社法、民法上の第三者のためにする契約と保険法上の第三者のためにする保険契約との比較、生命保険と相続など）について、法学研究方法を用いて論文指導を行う。立法論・解釈論・政策論を問わず、特に実務と理論を結び付ける独創性のある論文作成を重視する。
川出 良枝 教授		近現代（16世紀～20世紀）の欧米（とりわけフランス）の政治思想を中心としつつ、国家論、国際関係理論、あるいはヨーロッパ政治史の論文指導を行う。必要に応じて日本の政治思想も取り扱う。着想に始まり、調査、分析、執筆という経過を経て、質の高い学術論文を完成させるために必要な技術を伝授する。
白鳥 潤一郎 准教授		第二次世界大戦後の日本を中心としつつ、国際政治、日本政治外交史、国際関係史の論文指導を行う。また必要に応じて比較政治や行政学も取り扱う。指導にあたっては、様々な資料／史料に基づいて政治的な実践をいかに把握して分析するかを重視する。
山岡 龍一 教授		近代イギリス政治思想史に関する研究、あるいは現代政治理論、特に自由主義の政治理論の研究を中心に研究指導を行う。政治という実践的な現象を、理論的に把握することの意義を考慮しながら、創造的な論文に結集する方法を指導する。社会科学の方法・哲学を重視する。
桑田 学 准教授		経済と環境をめぐる思想や理論、歴史にかかわる研究テーマについて論文指導を行う。 指導にあたっては、先行研究の十分な渉猟を踏まえた独創的な博士論文の完成に向けて、文献・論文の読解、概念史的分析、論文の構成などについて議論を重ねる。
松原 隆一郎 特任教授		社会経済学にかかわる研究テーマにつき、論文作成指導を行う。社会経済学は市場と「人間関係資本」との関係に焦点を当て、「文化資本」「自然資本」「金融資本」とのかかわりを考察する経済学であり、それにかかわる既存文献を読み解くに当たって助言を行う。さらにテーマを独創的に展開するために受講者に欠けている視点を補い、博士論文の執筆に向けて論理展開や目次の構成、資料の利用等を議論する。
北川 由紀彦 教授		都市問題・社会問題等に関する研究テーマ（例えば、格差、貧困、差別、社会的排除、マイノリティ等）について論文指導を行う。研究指導にあたっては、先行研究との関係において自身の博士論文をどのように位置づけ独創性を担保するのか、という点を重視する。
玉野 和志 教授		都市研究全般に関するテーマについて、論文指導を行う。研究指導にあたっては、自らの関心をどのような学問的な問いへと位置づけるか、参考となる既存研究をどのように探すか、そのうえでそれらの成果をふまえて、そこに何を付け加えるかという観点から、研究を深化させていく過程について、指導を行う。

社会経営科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
古橋 元 教授	12	地域研究として農業業経済学及び開発経済学を中心に各国・地域等や世界における食料需給及び将来見通しに関する研究テーマの論文指導を行う。研究指導にあたっては、1次産業や食料・農業における生産・消費・貿易等を基本としながら、対象となる事象に分野横断的な視点を考慮して助言を行う。先行研究を踏まえて、博士論文としての構成を練り、自身の博士論文がどのような位置づけで獨創性または創造性によって学術的に貢献し得るか、思考と議論を重ねた論文作成を重視する。
齋藤 正章 准教授		会計学と管理会計を専門としているので、財務会計、管理会計、公会計、環境会計、内部監査、経営分析について論文指導を行う。とくに、会計情報システムのあり方と組織設計に関する研究について演習を通じて指導を行う。博士課程では、会計に関する個別の領域からその周辺の学際的な領域まで比較的広い範囲をカバーする方法を教授する。
原田 順子 教授		人的資源管理のなかの研究テーマ（例：人材育成、就業条件管理、キャリア開発など）に関する論文を指導する。企業等の組織を主な対象として、経営管理の視点から、制度、効率性、社会的意義などを意識して助言する。博士論文の基本的な型を認識したうえで、創造性・獨創性・学術的貢献の面から議論を重ねる。
堀部 安嗣 教授		住まいや建築は今後どのようにつくられてゆくべきなのか、環境と人の営為と建築の関係を時代背景を踏まえながら指導してゆく。また昨今の気候変動や近代のもたらした作用と副作用を考察することで、論文の今日性と客観性を獲得する指導を行う。

人文学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
人文学特論 所属プログラム教員	2	研究の基礎となっている文献や資料の読解を通じて、哲学・思想、美術史、日本史、東洋史、西洋史、英語圏／フランス語圏文学、言語学、中国語学、コミュニケーション学、社会人類学、博物館学など、人文学の諸分野における研究の方法・成果を通観し、人文学における幅広い研究的教養を涵養する。異なる分野の精粹を学習し、専門分野における思考・分析の深化を図る。
哲学・思想研究法 (担当教員が決まり次第、 開講予定)	1	(参考) 哲学・思想研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、哲学・思想研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探究する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③時代・領域ごとの文献の特性を理解し、研究テーマに即した原文読解力を向上させ、研究論文を作成する構想力と表現力を涵養する。
日本古代・中世史研究法 近藤 成一 特任教授	1	日本古代・中世史研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、日本古代・中世史研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③時代・地域ごとの史料の特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
日本近世・近代史研究法 杉森 哲也 教授	1	日本近世・近代史研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、日本近世・近代史研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③時代・地域ごとの史料の特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
西洋史学研究法 河原 温 特任教授	1	西洋史学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、西洋史学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③時代・地域ごとの史料の特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
日本文学研究法 (担当教員が決まり次第、 開講予定)	1	(参考) 日本文学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいてジャンルや時代ごとの研究状況を把握し、文学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況の問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を強化する。 ③時代ごとの作品の特性を理解し、研究テーマに即した原文読解力を向上させ、研究論文を作成する構想力と表現力を涵養する。

人文学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
フランス語圏文学研究法 野崎 敏 教授	1	フランス語圏文学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、フランス語圏文学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③言語・文化の変遷などによる時代ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。 フランス語圏文学研究の基盤を造成することを目的として、受講生の問題関心に基づいて授業を行う。
英語圏文学研究法 宮本 陽一郎 特任教授	1	英語圏文学研究において基礎となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、英語圏文学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。 ③言語・文化の変遷などによる時代ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。
言語学研究法 滝浦 真人 教授	1	言語学研究において必須となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、言語学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を涵養・向上する。 ③言語や時代ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力・収集力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を確かなものとする。
コミュニケーション学 研究法 大橋 理枝 教授	1	コミュニケーション学研究において必要となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいて研究状況を展望し、コミュニケーション学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を強化する。 ③研究動向の特徴を理解し、研究テーマに即した文献読解力を向上させ、研究論文を作成する構想力を養成する。
中国語学研究法 宮本 徹 教授	1	中国語学研究において必須となる方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、中国語学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。 ②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を涵養・向上する。 ③時代や地域ごとの資料的特性を理解し、研究テーマに即した資料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を確かなものとする。
社会人類学研究法 大村 敬一 教授	1	社会文化人類学の研究に必要な方法・技法について習得する。 ①各自の研究関心に基づいて地域社会ないし民族ごとの研究状況を展望し、社会文化人類学研究の蓄積を学説史的に把握するとともに、研究主題の理論的意義を把握して問題点を明確にする。 ②現地研究の技法を習得することにより、研究上の諸側面にわたる基礎力と応用力を涵養する。 ③研究テーマに即した論理展開力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を確かなものとする。

人文学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
博物館学研究法 鶴見 英成 准教授	1	<p>各自の関心に沿って博物館学の研究を進める上での重要な問題意識、必要な視座を獲得する。</p> <p>①担当教員の、アンデス考古学をめぐる実践的な博物館研究の事例を随時参照しながら、博物館の特質と求められる役割について、各自の研究関心に即して思索し、問うべき論点を明確にする。</p> <p>②各自の見いだした問題点を探求するために、いかなる調査分析が必要となるかを、展望する視座を持たせる。</p> <p>③論点と視座の確立によって、論理的に研究論文を作成する基礎力を確実なものとする。</p>
東洋史学研究法 小二田 章 准教授	1	<p>東洋史学研究において基礎となる方法・技法について習得する。</p> <p>①各自の研究関心に基づいて時代・地域ごとの研究状況を展望し、東洋史学研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。</p> <p>②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。</p> <p>③時代・地域ごとの史料の特性を理解し、研究テーマに即した史料読解力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。</p>
美術史研究法 船岡 美穂子 准教授	1	<p>美術史研究において基礎となる方法・技法を習得する。</p> <p>①各自の研究関心に基づいてジャンル・時代ごとの研究状況を展望し、美術史研究の蓄積を学説史的に展望するとともに、現段階における研究状況を把握して問題点を探求する。</p> <p>②研究資料の探索法を習得し、研究の基礎力を造成・向上する。</p> <p>③時代・地域ごとの資料の特性を理解し、研究テーマに即した資料読解分析力を向上させ、研究論文を作成する基礎力を涵養する。</p>
人文学特定研究 (研究指導)	12	<p>人文学研究に関する特定研究課題について、学生の研究関心に基づいて研究指導を行い、その成果を学術的独創性の高い研究論文に結実させる。</p>
(担当教員が決まり次第、 開講予定)		<p>(参考)</p> <p>ゼミナールおよび個人指導により、哲学および思想学研究における専門的知識の習得と先行研究の学説史的総括を行うとともに、原典読解法、論理的構想力、学術的表現力を向上させ、独創性に富む学術論文を作成するための研究指導を行う。</p>
大橋 理枝 教授		<p>ゼミナールと個別指導を併用しながら、異文化間コミュニケーションの分野で培われてきた研究手法や実際の研究例及び成果についての知見を基盤として、学生が各自の研究課題を具体的かつ適切に遂行し、高いレベルと公共性を満たした研究論文を完成できるよう研究指導を行う。</p>
大村 敬一 教授		<p>社会人類学の研究において基礎となる研究文献を考究することで諸理論を批判的に検討し、各自の研究テーマに即した理論を構築したうえで、現地調査に基づいた考察を行い、高いレベルと公共性を満たした学術論文を執筆するための研究指導を行う。</p>
河原 温 特任教授		<p>ゼミナールおよび個人指導により、西洋史研究の素材である歴史史料（古文書および刊行文書）の正確な読解と解釈、研究史（先行研究）の把握とそれを踏まえた論理構築の能力を養成するとともに、これらを基盤として、具体的な研究課題の設定に基づく論文の構想及び作成のための研究指導を行う。</p>
小二田 章 准教授		<p>ゼミナールおよび個人指導により、東洋史研究の素材である史料（文献及び様々な形態の記録）の正確な読解と解釈、研究史（先行研究）の把握とそれを踏まえた論理構築の能力を養成するとともに、これらを基盤として、具体的な研究課題の設定に基づく論文の構想及び作成のための研究指導を行う。</p>

人文学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
近藤 成一 特任教授	12	ゼミナールおよび個人指導により、日本古代・中世史研究の素材である古文書・古記録などの史料の正確な読解と解釈、研究史の理解とそれを踏まえた論理構築の能力を養成するとともに、これらを基盤として、具体的かつ適切な課題設定に基づく研究論文の構想および作成のための研究指導を行う。
(担当教員が決まり次第、 開講予定)		(参考) ゼミナールおよび個人指導により、国文学研究における専門的知識の習得と先行研究の学説史的総括を行うとともに、原典読解法、論理的構想力、学術的表現力を向上させ、独創性に富む学術論文を作成するための研究指導を行う。
杉森 哲也 教授		ゼミナールおよび個人指導により、日本近世・近代史研究の素材である古文書・古記録などの史料の正確な読解と解釈、研究史の理解とそれを踏まえた論理構築の能力を養成するとともに、これらを基盤として、具体的かつ適切な課題設定に基づく研究論文の構想および作成のための研究指導を行う。
滝浦 真人 教授		ゼミナールと個別指導を併用しながら、言語学において培われてきた言語研究の手法と実際の研究例及び成果についての知見を基盤として、学生が各自の研究課題を具体的かつ適切に遂行し、高いレベルと公共性を満たした研究論文を完成できるよう研究指導を行う。
鶴見 英成 准教授		ゼミナールにおける指導を基本として、各自の博物館学的な問題意識に即して研究文献の収集を進め、理論の構築をはかった上で、現地調査を含む、必要な情報収集の方針を定める。これらを基盤として、具体的な研究課題の設定に基づく論文の構想及び作成のための研究指導を行う。
野崎 歆 教授		ゼミナールと個別指導を併用しながら、フランス語圏文学において培われてきたフランス語圏文学研究の手法と実際の研究例及び成果についての知見を基盤として、学生が各自の研究課題を具体的かつ適切に遂行し、高いレベルと公共性を満たした研究論文を完成できるよう研究指導を行う。
船岡 美穂子 准教授		ゼミナールにおける指導を基本として、美術史研究の対象となる美術作品の様式的、図像学的方法論を応用するとともに、一次史料・二次文献資料を正確に読解し解釈できる能力を養う。研究史を把握してそれを踏まえた論理構築をはかった上で、学生が各自の研究課題を具体的かつ適切に遂行し、高いレベルと公共性を満たした研究論文を執筆・完成できるよう研究指導を行う。
宮本 徹 教授		ゼミナールと個人指導を併用しながら、中国語学において培われてきた中国語研究の手法と実際の研究例及び成果についての知見を基盤として、学生が各自の研究課題を具体的かつ適切に遂行し、高いレベルと公共性を満たした研究論文を完成できるよう研究指導を行う。
宮本 陽一郎 特任教授		ゼミナールと個別指導を併用しながら、関連分野において培われてきた諸理論を踏まえつつ、今日の英語圏文学研究における実際の研究手法及び研究成果についての的確に評価しうる知見を涵養し、学生が各自の研究課題を具体的かつ適切に遂行し、高いレベルと公共性を満たした研究論文を完成できるよう研究指導を行う。

情報学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
情報学特論 所属プログラム教員	2	情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関わる原理や技術について、最先端の研究成果を学ぶとともに、情報化が人間と社会に及ぼす諸問題を的確に発見し、問題状況の解決に取り組むために必要となる研究アプローチの方法について学ぶ。「情報基盤」「情報数理」「ソフトウェア」「マルチメディア」「ヒューマン」という5つの研究領域ごとに、オムニバス形式で、講義や文献講読、議論を行い、研究遂行に必要な基本的な能力を養成する。
人間社会情報学研究法 青木 久美子 教授	1	ヒトと情報との関係性、及び、社会と情報との関係性を研究するにあたって重要であると思われる視点を紹介するとともに、受講生が、学際的な視点から問題意識を持ち、自身の博士論文研究におけるデータの収集・分析・理論化に必要な基礎的知識を習得し、研究プロセスを具体的にイメージできるようにすることを目標とする。
生体情報処理研究法 秋光 淳生 准教授	1	数値情報研究において基盤となる脳の情報処理についての知見とそうした理論とモデルについて学ぶ。そのために必要な非線形力学と機械学習について学ぶ。こうしたモデルの動作についての理解に基づき、どのような工学的な応用がなされてきたのかについて調査を元に学ぶ。研究動向、研究手法について学び、そうした理論がどのように応用されてきたのかについて学ぶ。そして、受講生が取り組む博士論文の研究課題に関連した資料の調査や研究を行う。
知識情報処理研究法 浅井 紀久夫 教授	1	学習や認識の研究において基盤となる知識情報処理の理論と研究動向、研究手法について、人間とコンピュータとのインタラクションを対象とした事例を通して体系的に学ぶ。多種のデータから情報を抽出したり分類したりする機械学習、人間の情報処理特性に整合した情報可視化など、ヒューマンコンピュータインタラクションに要求される知識情報処理についての理解を深め、受講生が博士論文で取り組む研究に対して知識情報処理に基づく新たな視点と問題解決へのアプローチを探る。
認知情報科学研究法 大西 仁 教授	1	ヒトの認知を情報処理の観点から解明するためには、物理的な測定や質問紙やインタビューといった調査だけでは不十分で、実験的手法やモデル化等の手法を駆使して一貫的な理論を構築する必要がある。そこで、そのような研究を自立して行うための基礎として、研究アプローチの理解、方法および技法の習得を図る。具体的には、受講生が取り組む研究テーマに関連する研究を題材にして、因果関係を明らかにするための実験法、実験結果を適切な形で数値化する尺度構成法、実験結果を説明・予測するモデル構築法について文献講読と演習・実習を行う。
学習環境デザイン学 研究法 加藤 浩 教授	1	社会文化的アプローチによる学習環境のデザインの哲学・方法論・評価方法について学ぶ。まず、社会文化的アプローチとはいかなるもので、どのような歴史的経緯を経て発展してきたかを、他の学習理論との対比を通して学ぶ。次に、学習環境が満たすべき要件とそのデザインの方法論についていくつかの事例を通して検討する。さらに、それらの事例を通して、エスノメソロジー・活動理論などの分析評価の枠組みについて理解を深め、学習環境デザインに対してどのような評価が可能かを検討する。

情報学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
学習コンテンツ評価 研究法 近藤 智嗣 教授	1	学習コンテンツを開発するためには、形成的評価と総括的評価が必須である。本授業では、その指標として、視線を計測するアイトラッカーを使用した行動分析を取り上げ、実際にアイトラッカーを使用した実習および分析の演習を行う。また、関連する先行研究における研究方法として、実験計画や記述方法を理解した上で、受講生が取り組んでいる博士論文に関連した実験計画を立てられるようにする。
メディアリテラシー 研究法 芝崎 順司 教授	1	情報を処理・発信・評価・識別する、いわゆるメディアリテラシーやその教育に関する諸問題の基礎概念や研究動向、研究方法等について学習する。そのため、前半は講義、文献講読とディスカッションを行う。後半は各自、メディアリテラシーに関する課題をたて、その課題解決を目指すための研究計画を作成し、発表とディスカッションによりその精緻化を図る。
計算機システム研究法 鈴木 一史 教授	1	様々な計算機システムに関する基本的な概念やアルゴリズムを習得し、ソフトウェア開発や研究に応用できる知識と技術を学習する。そして、受講生が取り組む博士論文の研究課題に関連した資料の調査と研究を行う。
情報教育研究法 辰己 丈夫 教授	1	情報科学、情報工学、情報倫理学、数学などを学問的背景として、現在の情報基盤・コンピュータ・ネットワークは成立している。情報教育学は、そのような現在の情報社会における、広い意味での知識伝達を対象としている学問である。この講義では、特に、中等教育・高等教育（中学校・高等学校・大学）における学校での情報教育や、企業内教育などの現場における情報教育について、主に、プログラミング教育、情報セキュリティ教育、情報倫理教育の領域において受講者が取り組む博士研究の項目を重点的に取り上げ、講究する。
教育・学習システム工学 研究法 辻 靖彦 教授	1	教育や学習におけるICTを用いたシステムの開発やその活用及び、得られたデータの評価分析方法に関して基本的な概念、研究方法や研究動向、教育実践について学習する。そのために、文献購読を行い議論し合うことを通じて最新の研究知見と研究動向を理解し、研究方法を主体的に習得する。後半では本科目の内容及び各自の研究テーマと関連した課題を設定し、先行研究、課題の解決方法や研究アプローチについて発表を行う。これらの学修を通じて博士論文における自律的な研究活動の基盤を構築する。
メディア教育研究法 中川 一史 教授	1	本授業では、メディア教育において基盤となる理論や研究動向・研究方法・学校や授業におけるICT活用実態等について各回のテーマに沿って学ぶ。特に、初等中等教育におけるタブレット端末やデジタル教科書の活用などのICT活用、情報活用能力など、教育の情報化に関する内容を視野に入れながら、研究における課題の設定や問題解決の方法、システムの設計や開発について紹介する。受講生が取り組む研究テーマに関連する基礎知識の習得を目標とする。
メディア情報質評価 研究法 仁科 エミ 教授	1	音や映像など視聴覚メディア情報の情報構造を分析する手法、および、その質的違いが人間にもたらす生理的・心理的・行動的影響を捉え評価する手法を、実際の研究例を通して学ぶ。それらの多様な手法を踏まえて、学生が取り組む博士論文の研究課題に適した手法を選択・構築するための資料の調査と研究を行う。

情報学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
情報環境応用研究法 葉田 善章 准教授	1	情報工学において基盤となる理論や研究動向・研究方法について、モノのインターネットに代表される環境を構築する分野を中心に学ぶ。ネットワークにつながるさまざまな端末により構成されるシステムに関し、研究を進める上での課題の設定や問題解決の方法、システムの設計や開発、得られたデータの活用について紹介する。受講生が取り組む研究テーマに関連する基礎知識の習得を目標とする。
マルチメディア情報処理 研究法 柳沼 良知 教授	1	マルチメディア情報処理の最新の理論や研究動向、研究方法等を学ぶことを目的とする。基礎的な理論から始まり、情報パターンの分析・認識手法、大規模データの処理手法などについて学ぶ。博士論文で取り組もうとしている研究テーマ・課題に関連する事柄を体系的に学ぶことで、研究テーマ・課題の意義を明確化するとともに、自立的に研究を進めるための素地を習得できるようにする。
デザイン研究法 伏見 清香 教授	1	デザイン研究法では、情報伝達表現を使用したコミュニケーションデザインに必要な幅広い手法を学び、その歴史を踏まえた表現のプロセスを理解する。また、人間中心設計を踏まえたデザインに向け、市場調査やユーザー調査の手法を学ぶ。さらに、受講生が取り組む博士論文の研究課題に向け、関連事例の調査やデザインの実践、実証実験等、問題解決へのアプローチを探る。
教授システム研究法 平岡 斉士 准教授	1	教授システムとは Instructional Systems の訳であり、学習と教育を効果的・効率的・魅力的にするためのしくみである。本科目では、学習と教育の設計の基本を学んだ上で、多様な状況に適用するために検討すべきことや、そのプロセスについて実践的に学ぶことで、自ら教授システムを設計するための練習を行う。検討する事例は可能な限り、学習者自身の教育実践に即したものとする。それらの教育実践事例をもとに、学習者が相互に取り組み内容、改善案、その根拠などを提示し、ブラッシュアップすることで、学習と教育の設計と改善を進められるスキルを習得することを学習目標とする。

情報学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
情報学特定研究 (研究指導)	12	情報学に関する特定の研究課題について、高度な自立的な研究能力を養成し、その成果を科学的根拠に基づいた創造性の高い論文にまとめるための指導を行う。
青木 久美子 教授		情報通信技術 (ICT)が社会文化的文脈の中でどのように影響しているのか、また、ICTの活用によって教育や社会をどうしたら改善できるのかといった研究テーマを中心に、受講生の問題意識を明確化し、先行研究を十分考慮した研究計画を作成・実施することを指導し、学術的意義、又は社会的意義の高い論文の作成をサポートする。
浅井 紀久夫 教授		マルチメディア情報処理に関する先端技術と幅広い知識を習得し、機械学習等の手法を取り入れた推定や分類、複数のセンサデータに基づく適応処理技法や人間の情報処理メカニズムに基づいたシステムなどについて先進的技術の創出を目指す。自ら問題を設定し、独自の発想に基づく解決を図り、研究論文としてまとめる能力を養えるように研究指導する。
大西 仁 教授		認知科学、とりわけヒトにおける知覚、感性、思考、学習、行動のメカニズムを解明するために必要な実験、データ分析、モデル化の方法の習得を図る。また、多様な側面から研究結果の妥当性やオリジナリティを検討・主張するために必要な関連領域の研究のレビューを行い、問題設定から論文発表までを適切な形で行えるように指導する。
加藤 浩 教授		社会・人間・人工物を含む広義の学習環境をデザインするために、認識論・社会学・文化人類学・情報工学・人間工学・ヒューマンインタラクションなどの諸科学を総合的・学際的に学び、人間の学習を全体論的に分析するための質的・量的両面の調査法・データ分析法の習得を目指す。とくに研究指導それ自体を社会文化的アプローチによる学習環境デザインの実践とみなして、研究実践コミュニティへの積極的参加と貢献を通して、研究者としてのアイデンティティを確立できるよう研究指導を行う。
近藤 智嗣 教授		学習コンテンツとしては、映像、印刷物、電子書籍、Webサイト、スマートデバイスアプリ、バーチャルリアリティ、ミクストリアリティ、博物館展示などがあり、それらを開発するためには、形成的評価と総括的評価が必須である。評価の指標には、学習の達成度、学習履歴、質問紙調査、行動分析などがある。これらを複合的に使用することで、科学的根拠のある論文を執筆できるよう指導する。
芝崎 順司 教授		eラーニングや映像視聴システム、教材オーサリング等、授業支援システムの開発やその活用に関する研究指導を行う。また、情報を処理・発信・評価・識別する、いわゆるメディアリテラシーの諸問題に関する研究指導も行う。受講生各自の研究テーマに即して、先行研究を十分に検討し、研究の現代的意義、新規性、方法の妥当性、分析の信頼性、結果の有用性等の観点から、研究計画に沿った系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。
鈴木 一史 教授		計算機科学に関する広い視野に立った学識を習得するとともに、学生が自主的に課題を定めて研究を行い、その研究成果を論文にまとめ、発表を行う。研究者あるいは専門家としての知識を身につけ、学生が自立できるように指導を行う。国内外の学会における発表、さらには学会誌での論文発表ができるように指導を行う。

情報学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
辰己 丈夫 教授	12	<p>情報教育の領域において発生している問題を明確にし、その領域での新たな教育法の開発や、問題の構造の発見を目指す。いずれも、論証のために、さまざまな先行研究の理解と、分析手法の修得、そして、新しい教育方法や理論を構築し、論文として記述・発表する能力の獲得が必要である。</p>
辻 靖彦 教授		<p>社会・人間・人工物を含む広義の学習環境をデザインするために、認識論・社会学・文化人類学・情報工学・人間工学・ヒューマンインタラクションなどの諸科学を総合的・学際的に学び、人間の学習を全体論的に分析するための質的・量的両面の調査法・データ分析法の習得を目指す。とくに研究指導それ自体を社会文化的アプローチによる学習環境デザインの実践とみなして、研究実践コミュニティへの積極的参加と貢献を通して、研究者としてのアイデンティティを確立できるよう研究指導を行う。</p>
中川 一史 教授		<p>タブレット端末やデジタル教科書の活用などのICT活用、情報活用能力など、教育の情報化に関する内容を視野に入れながら、初等中等教育におけるメディア教育、情報教育に関する研究指導を行う。研究課題を立て、論文作成に至るまで、自身の今後につながるよう指導を行う。</p>
仁科 エミ 教授		<p>視聴覚メディア情報と人間とりわけ脳との適合性に関する情報環境学・音生態学のアプローチを学び、研究対象に合わせて研究手法を構築する入力問題主導型で学際的かつ問題解決志向の研究スタイルの習得を目指す。それらを通じて、より「人にやさしいメディア」を実現するための研究活動が可能になるよう研究指導を行う。</p>
葉田 善章 准教授		<p>IoTに代表されるシステムにかかわる領域について、受講生各自の研究テーマに即して研究そのものと、それをめぐる諸課題の現代的意義づけ、研究方法、論文の構成と内容等に関して研究計画にそった系統的・体系的な指導を行い、研究論文を作成させることを目指す。</p>
伏見 清香 教授		<p>情報デザインに必要な幅広い情報伝達表現の知識を習得し、問題解決に向けてデザインプロセスを実践する。人間中心設計を基本として、クライアントとユーザの理解、調査分析からコンセプトの立案、デザイン提案、実証実験におけるデザイン評価を実施する。研究成果をまとめ、学会や国際会議での口頭発表や論文発表を行えるよう指導する。</p>
柳沼 良知 教授		<p>情報工学、特にマルチメディア情報処理に関する幅広い知識や能力を身につけるとともに、コンピュータ上での、数値、テキスト、音声、画像、映像といった様々なデータの表現や処理技術、それらのデータ構造やデータベース化などについて成果をまとめられるよう研究指導を行う。研究成果を論文としてまとめ、国内外の学会での研究発表や、学会誌での論文発表を行えるよう指導する。</p>

情報学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
平岡 齊士 准教授	12	<p>学習の効果・効率・魅力を高めるための、特にICTを活用した方法論の確立と実践についての研究テーマの設定、研究計画の策定、データ収集・分析、論文執筆など、研究活動全般を指導する。研究の理論的背景として、教育工学とくにインストラクショナルデザインとそのベースとなる認知心理学の知見を活用できるようになることを支援する。実践を重視し、具体的な教育現場における課題を解決するための手段を、理論に基づいて検討し実践する。その結果を分析し理論化・一般化する練習を通じて、教育現場に広く還元するための技術と知見を習得することを目標とする。具体的な問題解決の手段としては、特にICTの特性を活かした学習支援に焦点を当て、学生自身と周囲の人々の幸福に繋がる研究を支援する。</p>

自然科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
自然科学特論 所属プログラム教員	2	自然科学プログラムに関連する専門分野の最先端の研究成果や未解決の問題追求の現状について、研究の動機や目的、対象へのアプローチの方法といった、専門分野にとらわれない根源的な部分についての議論を通して、研究遂行に必要な能力を養成する。特に、各研究分野では、何を知らうとして、あるいは何を生み出そうとして、どのように研究が行われているのか、といった先端研究における思考法や発想法を習得する。また、他分野との共通点と相違点を把握することによって、より柔軟な思考力と創造力を養う。授業の題材については、担当講師が受講生に応じて適宜設定する。
生態環境研究法 加藤 和弘 教授	1	生態環境科学に関する研究を行う上で、その背景となる基本原理や、生態系及び生物群集についての調査法、調査結果の解析法の理解は、不可欠である。しかしそれらは、研究対象生物や対象となる空間、地域によって大きく異なる。本講では、各自の研究対象や研究目的と関連の強い先行研究論文を講読し、論文で取り上げられた生物群集や個体群の特性の把握、対象地の自然立地条件の理解、主要な生物間相互作用の検討、適切な調査研究及び分析方法の考察を行う。調査研究あるいは分析方法については、本学の教材や他の文献も参照しつつ、他分野における関連手法も考慮する。
生物科学研究法 二河 成男 教授	1	生物科学に関する研究を行う上で、その背景となる対象生物の特性や実験方法の理解が不可欠である。 ただし、これらは研究対象ごとに大きく異なることが、生物の特徴である。本講では各自の研究対象に沿って、過去の先行研究を題材にその生物の特性と実験方法の理解を目標とする。基本的に課題とする文献は英語文献とする。
分子科学研究法 橋本 健朗 教授	1	分子科学研究では、何をやるかという課題設定だけでなく、どうやって解決するかという研究手法が重要である。現在利用できる手法や理論の限界や問題点の克服なしに、解決できない重要課題も多数ある。既存研究手法を活用するにせよ、あるいは方法に未解決問題を抱える課題に挑戦するにせよ、研究手法を原理から理解することが不可欠である。本講義では、自らの具体的研究課題に沿って、活用する研究手法、挑戦する課題を深く理解し、知識を課題解決に繋げる術を学ぶ。この過程を通じて、必要となる十分な英語文献購読力、発表力、構想力を身につける。
化学研究法 安池 智一 教授	1	化学は分子を基盤としたものの見方に立脚する学問である。近年様々な学問分野において分子論に基づくアプローチが模索され、化学の対象は拡がりその方法論も大きな変革を遂げている。本講では、分子論的アプローチに必要な知識を習得し、実践の基礎を学ぶことをその目的とする。個々の分子の性質の理解に必要な量子力学、タンパク質などの巨大分子、分子集合体の理解に必要な統計熱力学について学び、近年の分子理論の実践に欠かせない計算機シミュレーションについても、演習を通じてその基盤技術の習得を目指す。
凝縮系物理学研究法 岸根 順一郎 教授	1	博士課程での研究に必要な凝縮系物理学の基礎概念を解説する。「対称性とその破れ」、および「凝縮系物理学における場の量子論」を中心に解説する。
原子核物理学研究法 飯田 圭 教授	1	原子核物理学の対象は、安定な原子核のみならず、不安定な原子核、クォーク物質、中性子星へと拡がりを見せている。本講においては、さまざまな手法（一般論、現象論、システマティックス、近似法など）を学ぶことにより、これら量子多体系についての定性的・定量的理解を深める。

自然科学プログラム

科目名 担当教員名	単位	講義概要
宇宙物理学研究法 谷口 義明 特任教授	1	宇宙物理学に関連する専門分野の最先端の研究成果や未解決の問題追求の現状について、研究の動機や目的、対象へのアプローチの方法といった、専門分野にとられない根源的な部分についての議論を通して、研究遂行に必要な能力を養成する。特に、宇宙物理学は物理学、化学、数学などの学際的な研究分野であるため、幅広い知識体系の習得が必須となる。その一方で、宇宙物理学特有の概念があり、より専門性の高い分野でもある。他分野との共通点と相違点を把握することによって、より柔軟な思考力と創造力を養う。授業の題材については、担当講師が受講生に応じて適宜設定する。
数理解析学研究法 石崎 克也 教授	1	近年、数学をひとつの解決法とする自然科学・社会科学の諸問題は、分野を問わずに広く研究対象となっている。この授業では、数理解析学・関数方程式論の応用として、このような数理科学モデルを取り扱う。数理解析学における既知の理論の理解、問題解決のための新たな理論の発見、求められている数理科学モデルの構築、数式処理ソフトによるモデルの可視化など学習し、主体的に研究できる能力を習得できるように指導する。また、広い視野から分野横断的な考察と新研究領域の発掘を行い、研究成果を大域的に判断し、世界に発信できる能力を養う。
数理論理学研究法 隈部 正博 教授	1	数学は近年、抽象性と厳密な論理性を追求した結果、自然科学のみならず様々な分野に応用されている。同時に純粋数学として、それ自身の理論の完全なる解明、そして新しい理論の構築を目指して、現在でも発展し続けている。このような多岐にわたる数学の分野において、論理的観点から、学生の研究課題を考慮しつつ講義する。先端分野で研究活動を始められるよう指導する。
地球惑星科学研究法 大森 聡一 教授	1	地球惑星科学は、基礎科学、テクノロジー、野外調査など、複合的な体系の上に成り立っている。与えられた研究テーマを推進するだけでなく、みずから研究テーマを開拓するためには、その背景となる体系の理解が必要である。この演習では、最新の研究論文から出発して、引用文献や基礎的な教科書をたどりながら、研究の構造を体系的に解析する訓練を行い、研究のための基礎体力を習得し視野を拡大する。演習の終わりには、新たな研究テーマを発掘するための議論と演習を行う。
自然科学特定研究 (研究指導)	12	自然科学に関する特定の研究課題について、自立した研究活動能力を養成し、その成果を科学的根拠に基づいた創造性・独創性の高い論文作成へと指導する。
加藤 和弘 教授		ある特定の生物にとって重要な環境条件とは何かを考えるための思考法と、その基礎となる理論をまず指導し、先行研究の把握とあわせて研究の知的基盤を醸成せしめる。次いで、重要な環境条件を検証するための野外調査法とデータ分析法を、個々の学生が直面する課題に即して習得するための研究指導を実施する。この過程で得られた研究成果に基づいて、新規性・独自性を備えた論文作成のための指導を行う。
二河 成男 教授		生命が持つ遺伝情報を基盤として、生物集団の構造や進化、生物個体の特性、あるいは生物の体内で生じる種々の分子あるいは細胞レベルの反応を明らかにするための方法と論理の習得のための研究指導を行う。この過程で得られた研究成果に基づいて、創造性、独創性を備えた論文作成のための研究指導を行う。
橋本 健朗 教授		分子の理論と計算こそが解決の決め手となる重要課題を発掘し、問題の本質を見抜く力を養う。課題ごとに適切な理論計算を行って結果から有用な情報を正しく引き出すことと、既存の方法の欠点を克服して課題解決に繋げることの両面から、独創性の高い研究を行う能力を涵養する。文献調査と対話を通じて自らの研究を位置づけ、研究発表と論文執筆により、論理的に成果を説明、記述する力を身につけさせる。

自然科学プログラム

科目名 担当教員名	単 位	講 義 概 要
安池 智一 教授	12	分子および分子集団の性質を記述する理論体系として量子力学・統計熱力学の基礎理論を学び、旧来の化学に留まらない様々な現象に対して分子論的アプローチを開拓する上で必要となる方法論の習得を目指す。また、先行研究に関するレビューの作業を通じて自らの問題意識を客観的に位置づけると同時に、適切な課題設定および論文作成の技法を学びとり、自立的な研究活動が可能となるよう研究指導を行う。
岸根 順一郎 教授		固体結晶の構造と機能の関連を物理学的に探求するため、量子力学、統計力学、場の量子論の論理と方法を習得する。そこで得た知識を用い、未知の量子現象や実験的な未解決問題に切り込んでいく研究能力を涵養する。文献渉猟による研究テーマの発掘、アイデアのモデル化、対話による着想の修正、論文の執筆といった物理学研究の実際的な流れを体得し、総合的で一貫した問題解決力を養う。
飯田 圭 教授		物質を際限なく圧縮していくと、超流動相、固相など、多彩な相状態が次々出現する。このような相転移現象を、物質の構成粒子とそれらの間の相互作用に起因する多体効果の観点から記述することは、高密度物質からなる系（中性子星や原子核）に見られる多彩な現象の本質を理解する上で重要である。興味ある現象について専門的知識を獲得後、現象の本質をとらえた問題を設定し、得られた定量的な結果を論文にまとめられるよう、研究指導を行う。
谷口 義明 特任教授		恒星、銀河、宇宙の大規模構造などの天体の諸階層について概観し、宇宙における構造形成を理解するための論理と研究手法の習得を目指す。次に、宇宙の進化を司る暗黒物質と暗黒エネルギーの役割をさらに概観し、宇宙進化の全体像を把握できるようにする。これらの知識体系を元に、研究テーマを決めて独創的な研究が行えるよう、研究指導を行う。
石崎 克也 教授		自然科学・社会科学に登場する数理科学モデルを、数理解析学を用いて考察する。既知の方法を正確に理解し、主体的な問題設定を行えるように指導する。また、モデルの可視化を行い、新たな解決方法を見いだせる能力を養えるように指導する。
隈部 正博 教授		数学及び、その応用として情報科学や経済学の分野において、数理論理的観点からアプローチする。 先端分野における先行研究を学び、新たな問題を発見し、独創的な研究が進められるよう、研究指導を行う。
大森 聡一 教授		宇宙から生命を含む自然界が、階層構造を持ち、時間発展するシステムであることを理解し、実証的に地球と生命の歴史を明らかにするための方法と知識の習得を目指す。さまざまな研究分野の研究者と議論する訓練を通して、学際的で独創的な研究を推進できるよう、研究指導を行う。



〒261-8586 千葉市美浜区若葉2-11
TEL.043-276-5111(総合受付)
www.ouj.ac.jp